

2023年3月期 第1四半期決算 投資家向け説明会

2022年8月10日

ソフトバンクグループ株式会社



免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（Arm Limitedを含み、以下SBGと併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」（https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor）をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を開覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SBファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

本資料には、Arm Limitedに関する記述が含まれています。これらの記述は、SBGの株主への情報提供のみを目的としたものであり、Arm Limitedが発行するあらゆる有価証券の販売又は購入の勧誘を目的としたものではありませんし、そのように解釈されるべきではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBGの普通株式の取引、スポンサーなしADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBGの普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBGの開示は、スポンサーなしADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADRの取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBGは、SBGの普通株式に関するスポンサーなしADRプログラムの設立又はそれに基づき発行されるADRの発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBGは、ADR保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBGが1934年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBGのホームページに、SBGが証券取引所法ルール12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づくSBGの普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG及び当社グループは、SBGの普通株式を表象するスポンサーなしADRIに関連して、ADR保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社やZホールディングス株式会社などの、スポンサーなしADRプログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はSB Global Advisers Limited（以下「SBGA」）、SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）及びそれらの関係会社を含むSBGの子会社（以下併せて「SBファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SBファンド」）のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SBファンドは、他のファンド同様、SBIAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」）、SBGAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド2」）及びSBGAとその関係会社によって運用されているSBLA Latin America Fund LLC（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」）を含みます。

SBファンド（ビジョン・ファンド1及びビジョン・ファンド2並びにラテンアメリカ・ファンドを含む）、SBファンド運用会社、SBファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるとかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報はSBファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又はSBファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SBファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連するSBファンド、本資料に言及されるその他のファンド又はSBファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SBファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連するSBファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SBファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連するSBファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載されるSBファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連するSBファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連するSBファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は常に、関連するSBファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SBファンド又はSBファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各SBファンド又は関連するSBファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにもみ提供されるものです。かかるロゴ又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SBファンド運用会社、SBファンドのポートフォリオ会社、SBファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又はSBGが、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA及びSBIAは、ビジョン・ファンド1、ビジョン・ファンド2及びラテンアメリカファンドの運用に関連して、相互にSBGからそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA又はSBIAによって運用されるSBファンドは、それぞれSBGA単独又はSBIA単独で運用されています。

本資料における為替換算レート

(円)

期中平均レート	FY21/Q1	FY21/Q2	FY21/Q3	FY21/Q4	FY22/Q1	FY22/Q2	FY22/Q3	FY22/Q4
1米ドル	110.00	110.47	113.60	117.10	129.04			
1人民元	17.01	17.09	17.75	18.43	19.60			
期末レート	2021/6月末	2021/9月末	2021/12月末	2022/3月末	2022/6月末	2022/9月末	2022/12月末	2023/3月末
1米ドル				122.39	136.68			
1人民元				19.26	20.38			

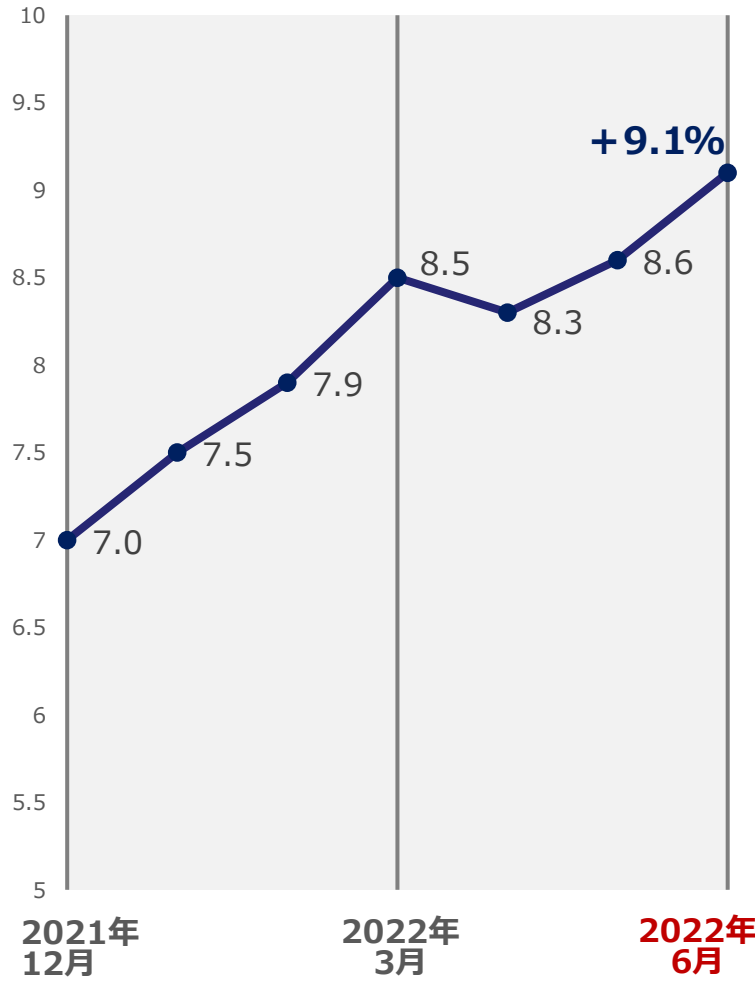
略称について

本資料では、以下の略称は以下の意味を指す。なお、企業名から「株式会社」や「株」を省略している箇所がある。

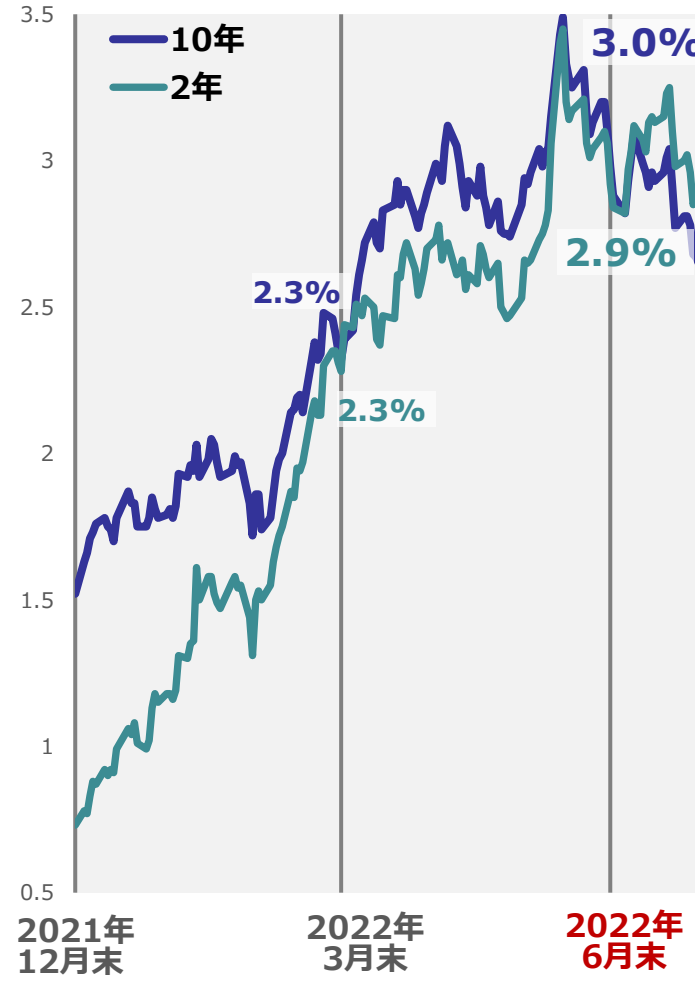
略称	意味 (傘下子会社がある場合、それを含む)
SBG	ソフトバンクグループ(株) (単体)
当社	ソフトバンクグループ(株)および子会社
SBKK	ソフトバンク(株)
SB Northstar	SB Northstar LP
SVF1 または ソフトバンク・ビジョン・ファンド1	SoftBank Vision Fund L.P. および代替の投資ビークル
SVF2 または ソフトバンク・ビジョン・ファンド2	SoftBank Vision Fund II-2 L.P.
LatAmファンド または ラテンアメリカ・ファンド	SBLA Latin America Fund LLC
SVF	SVF1、SVF2およびLatAmファンド
SBIA	SB Investment Advisers (UK) Limited
SBGA	SB Global Advisers Limited
SBGC	SoftBank Group Capital Limited
スプリント	Sprint Corporation
Tモバイル	スプリントと合併後のT-Mobile US, Inc.
ドイツテレコム	Deutsche Telekom AG
アーム	Arm Limited
アリババ	Alibaba Group Holding Limited
WeWork	WeWork Inc.

市場環境について

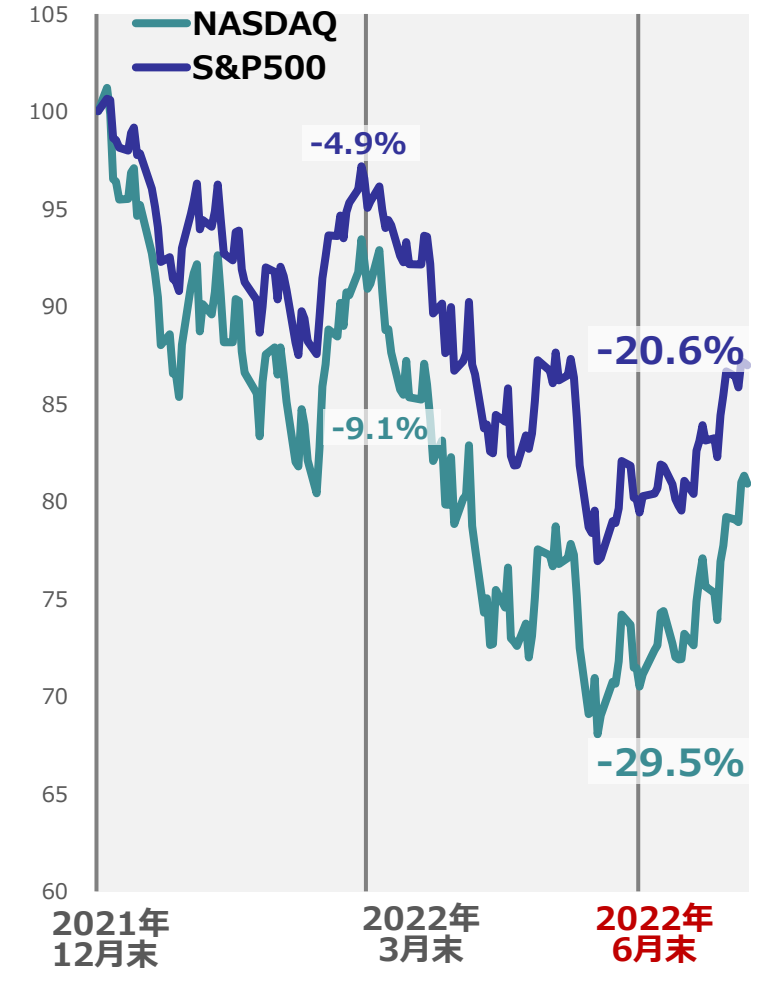
インフレと利上げを受けた株式市場の調整は続く



米国消費者物価指数*1 (CPI)
(前年同期比)



米国国債金利*2



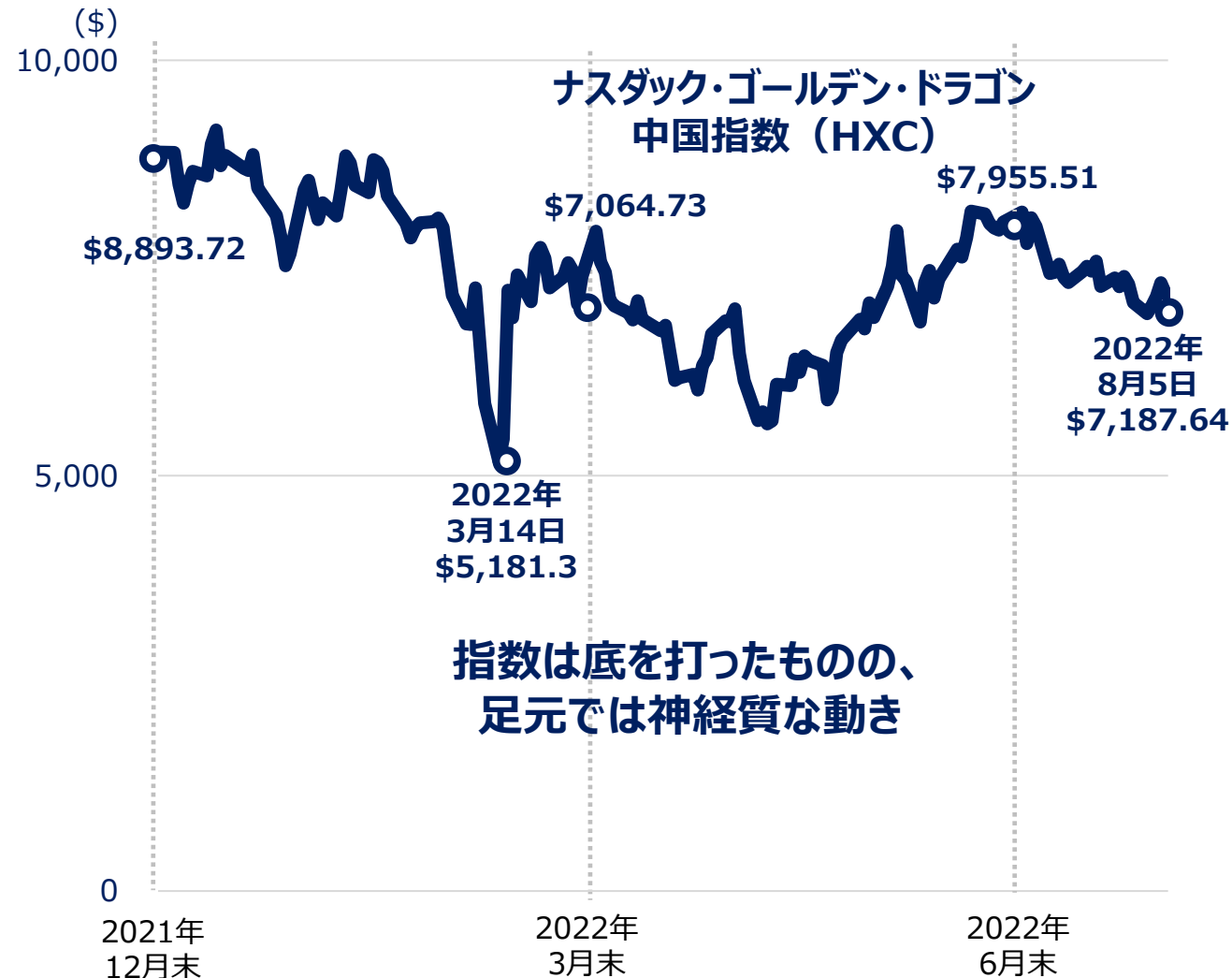
NASDAQ総合指数・S&P500*2
(2021年12月末を100として指数化)

*1 U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICSを基に当社作成

*2 S&P Capital IQを基に当社作成

中国に関する環境認識について

米中摩擦、中国規制環境については、ポジティブ、ネガティブ両面の動きがあり、依然として不透明感は晴れず



中国IT企業を取り巻く環境

ポジティブ

- 5月：中国副首相がデジタルプラットフォーム企業への支援を表明
- 6月：上海市のロックダウン解除
- 7月：米中間で対中制裁関税を見直す協議
- 7月：アリババが香港取引所プライマリー上場申請を発表

ネガティブ

- 7月：新型コロナの新規感染者数が再び増加
- 7月：複数のインターネット企業に罰金が科される
- 7月：SECが外国企業説明責任法（HFCAA）に基づく上場廃止警告リストにアリババを追加

環境認識

◆ グローバル経済

- ・ インフレ抑制のための利上げペース加速、リセッション入りリスクもくすぶる
- ・ 4-6月はテック株式の調整続く。その後、下げ止まりの兆し

◆ 地政学リスク

- ・ 米中摩擦・中国規制環境は、ポジティブ・ネガティブ両面の動きがあり、不透明感晴れず
- ・ ロシア・ウクライナ情勢は長期化

「守り」の実行

投資の抑制

資金化の継続

NAV 18.5兆円

22/3末比 **横ばい**

LTV 14.5%

22/3末比 **-5.9%**ポイント

手元流動性 4.6兆円

22/3末比 **+1.7**兆円

財務編

“SBG単体”の財務指標は、別段記載のない限り、連結グループから独立採算子会社を除いた数値を示します。独立採算子会社は、SBKK（Zホールディングスをはじめとする子会社を含む）、SVF1、SVF2、LatAmファンド、アームおよびPayPay等です。

FY22Q1総括*1

投資の抑制と継続的な資金化により、LTVが大幅改善

業績・NAV

純損失3兆1,627億円、NAV18.5兆円（3月末と横ばい）

- SVF投資先の公正価値が減少し、投資損失2兆8,344億円、純損失*2 3兆1,627億円計上
- 保有株式価値が減少した一方、アセットバック・ファイナンスによる手元流動性の増加や円安効果を背景に、NAVは18.5兆円で着地（3月末と横ばい）

財務活動

継続的な資金化により手元流動性が増加し、LTVが大幅改善

- LTV 14.5%、手元流動性 4.6兆円*3
- アセットバック・ファイナンス +\$12.2B（純額）（アリババ、Tモバイル、アーム）
- 短期借入金の返済 -\$4.5B（コミットメントラインに基づく借入金の返済）

投資活動

投資を抑制する一方、自社株買いは着実に実行

- SVFの投資活動
 - 投資：\$2.2B（SVF1&2）、\$0.2B（LatAmファンド）
 - 売却・資金化：合計\$4.1Bの売却や資金化（SVF1&2）
 - 分配：SBGはSVF1&2、LatAmファンドから合計\$2.3B*4の分配金を受領
- 自社株買い：FY22Q1の取得は2,935億円、2021年11月～2022年7月累計7,048億円

*1 別途記載がある場合を除き、2022年6月末時点

*2 親会社の所有者に帰属する純損失

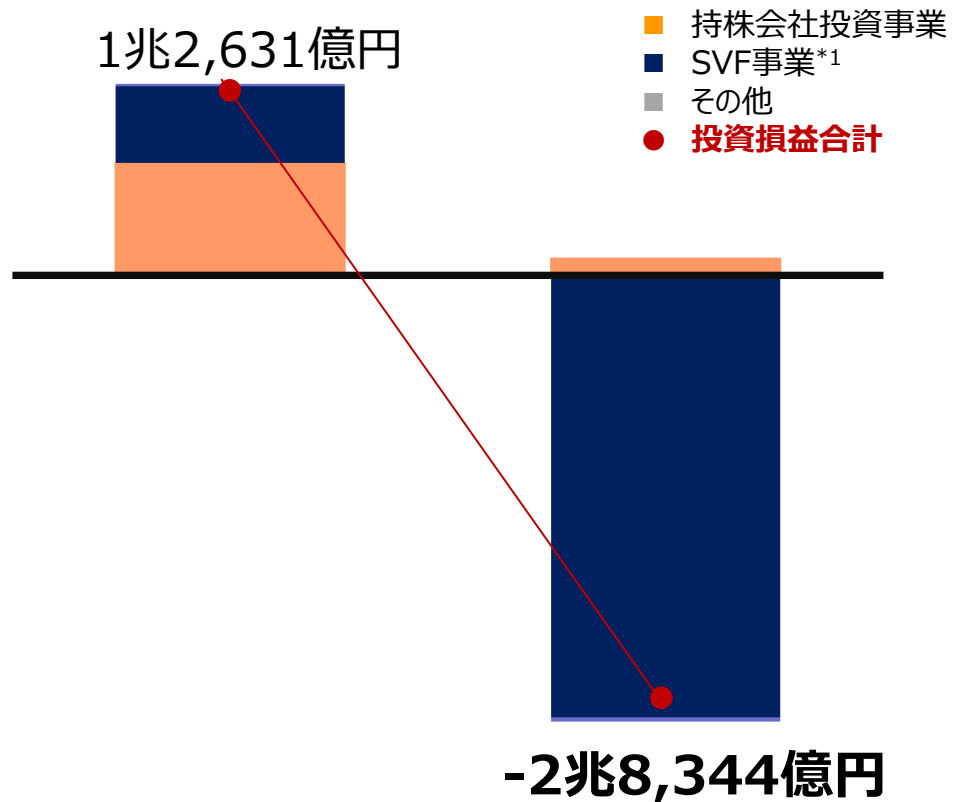
*3 現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+コミットメントライン未使用枠。2022年6月末のコミットメントライン未使用枠は7,398億円。SBG単体ベース（SB Northstarを除く）

*4 SVF1のインセンティブ・スキームへの分配金（\$0.3B）を含む。

投資損益・純利益

投資損失2兆8,344億円、純損失3兆1,627億円を計上

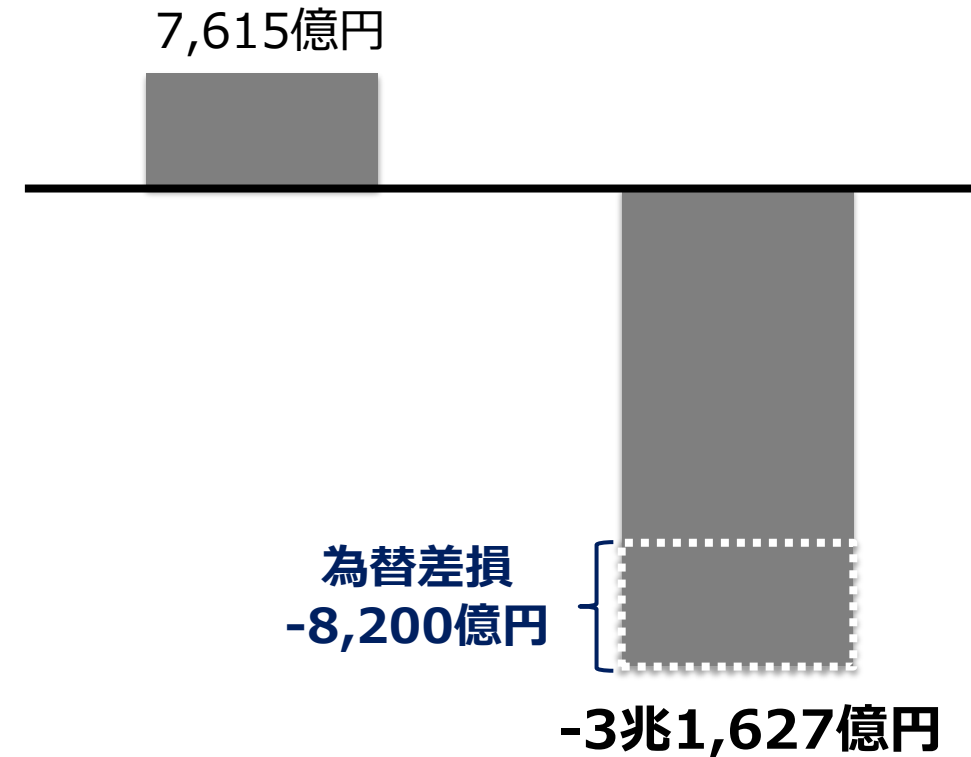
投資損益



FY21Q1

FY22Q1

純利益 (親会社の所有者帰属分)



FY21Q1

FY22Q1

*1 FY22よりLatAmファンドを統合。FY21Q1も組み替えて表示

FY22Q1の為替影響

円安は会計面もNAVに対してもポジティブ

会計
への
影響

連結純利益の減少
(為替差損の計上)
-8,200億円

主にSBG単体の外貨建借入に
関連する為替差損

資本の増加
(その他の包括利益累計額の増加)
+2兆967億円

SVFなどの在外営業活動体の為替換算差額

NAV
への
影響

NAVの増加
+2.2兆円

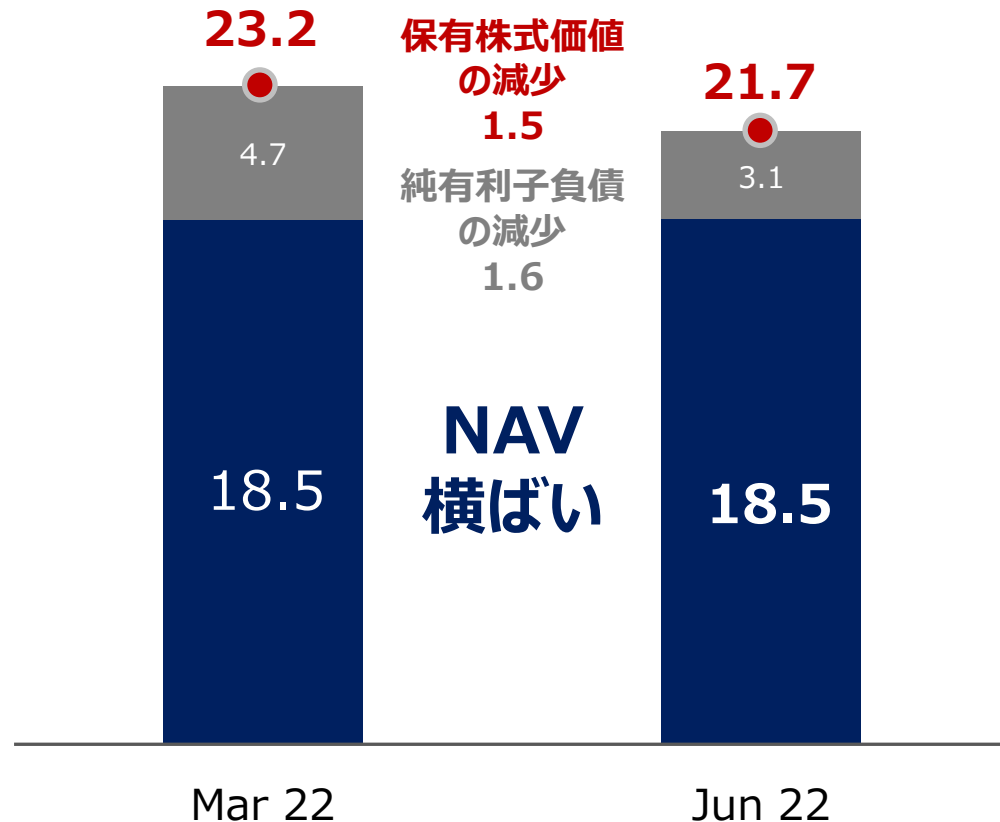
(保有株式価値の増加+2.0兆円、純有利子負債の減少+0.1兆円)

NAV・1株当たりNAV

NAVは3月末と同水準を維持

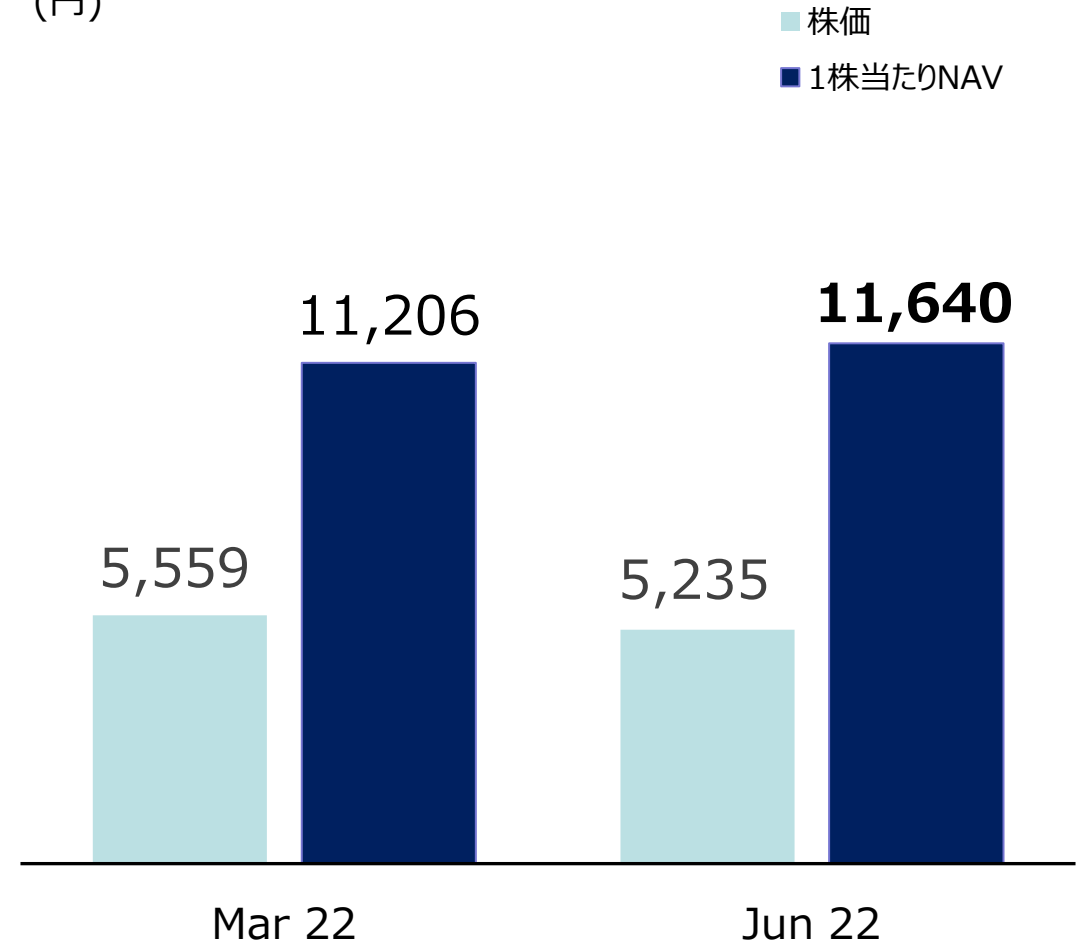
NAV (Net Asset Value)

(兆円)



1株当たりNAV*1と株価

(円)



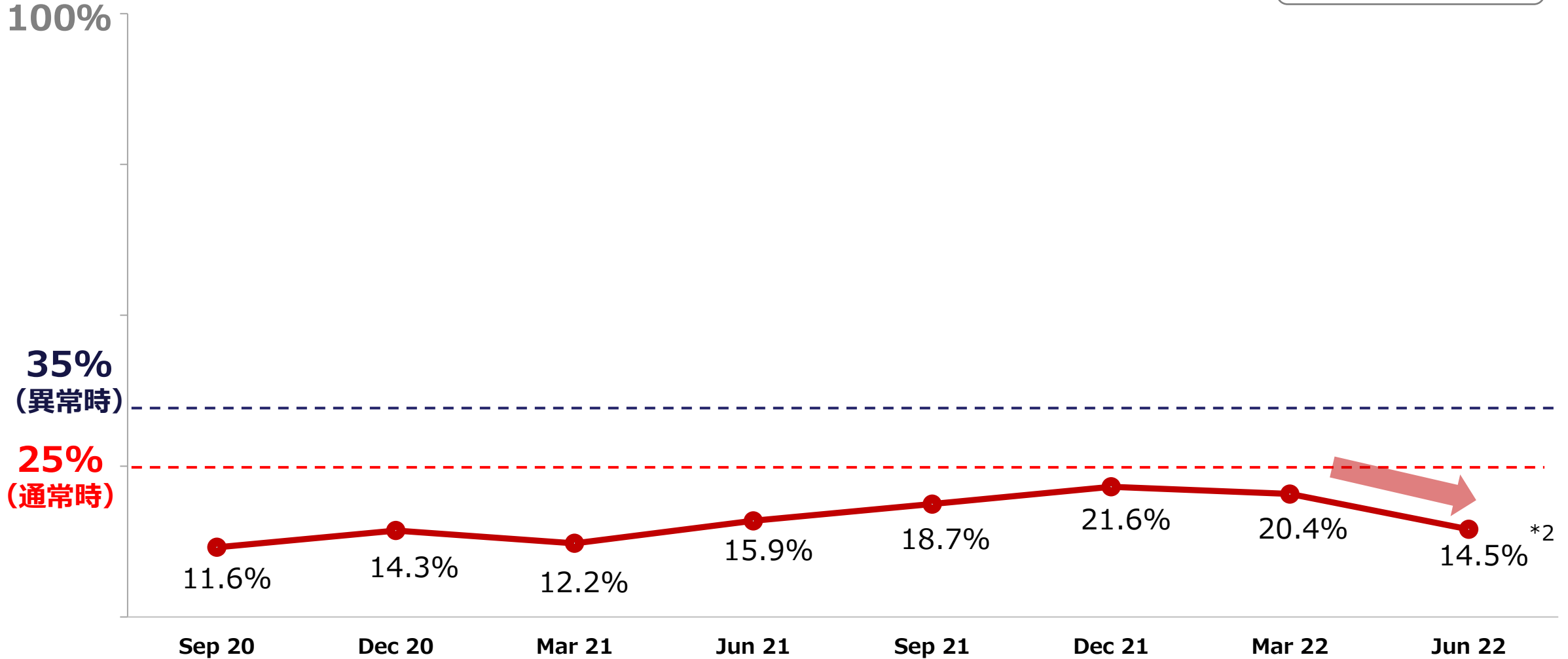
(注) 各四半期末時点

*1 1株当たりNAV = NAV ÷ 発行済株式総数 (自己株式を除く)。

LTVの推移*1

資金化によってLTVを大幅に引き下げ

アセットファイナンス除く

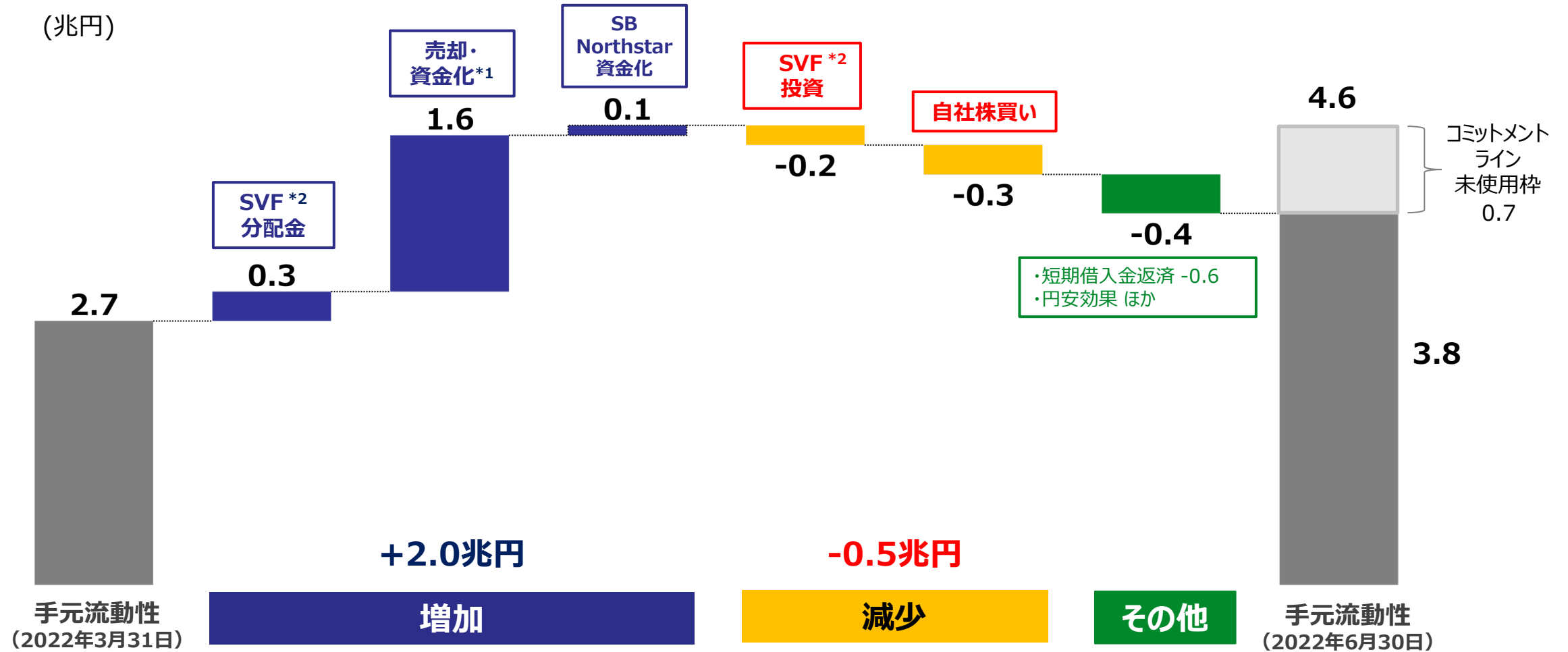


*1 各四半期末時点の数値を記載

*2 詳細は、Appendix「LTVの算出：SBG単体 純有利子負債」および「LTVの算出：SBG単体 保有株式価値」に記載

FY22Q1の投資回収サイクル

新規投資の抑制と資金化の継続の結果、手元流動性が1.1兆円増加



*1 売却・資金化による収入と返済による支出の純額

*2 SVF1&2およびLatAmファンド

- **投資事業の状況**
- 財務の状況
- 財務戦略
- ESGの推進

ソフトバンクグループ = 情報革命の資本家

2つの重要ドライバー



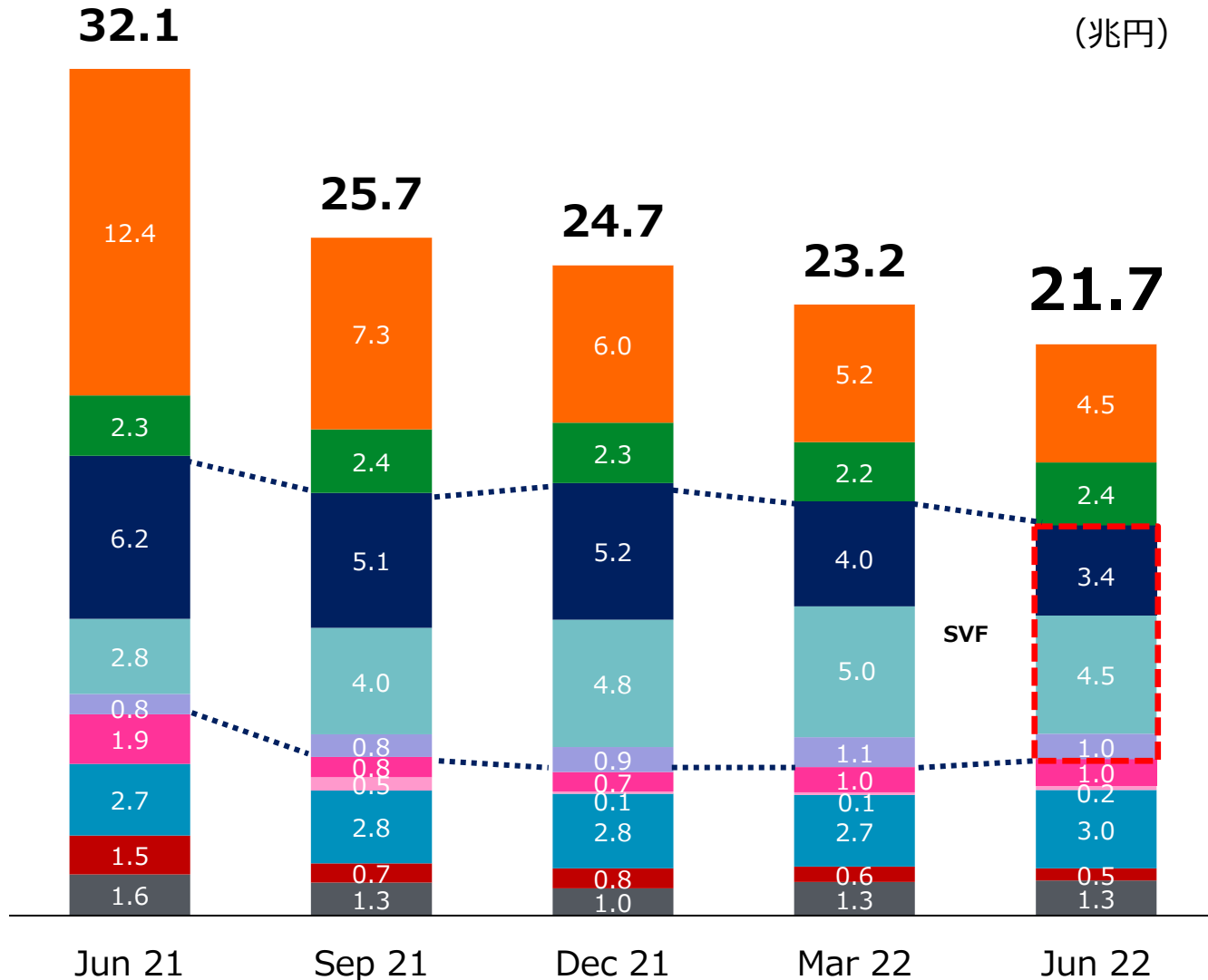
SVF

アーム

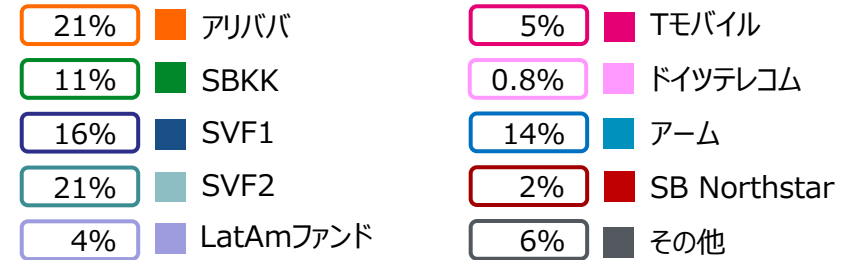
保有株式価値

アリババ株の資金化とSVFのバリュエーション見直しにより 保有株式価値は21.7兆円に減少

アセットバック・ファイナンス除く



構成比 (2022年6月30日時点)



2022年6月末時点の詳細はAppendix参照

- (注) 各四半期末時点
- アリババ: SBGの保有株式数に相当する米国預託証券数に同証券の株価を乗じ算出。アリババ株式を活用した複数の先渡売買契約 (フロア契約・カラー契約・フォワード契約・コールスプレッド) のうち、未決済分の満期決済金額 (同社株価 (米国預託証券) で算出) の合計額、アリババ株式を活用したマージン・ローンの負債残高相当額を控除。
 - SBKK: SBGの保有株式数に同社株式の株価を乗じて算出。SBKK株式を活用したマージン・ローン負債残高相当額を控除。
 - SVF1: SVF1の保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込金額等
 - SVF2: SVF2の保有資産価値相当に対するSBGの持分等
 - LatAmファンド: LatAmファンドの保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込金額
 - Tモバイル: SBGの保有株式数に同社株価を乗じて算出 (ドイツテレコムが保有する株式購入オプションの対象となる株式数 (2022年6月末時点: 34,971,809株) を含む)。一定の条件下でTモバイル株式 (48,751,557株) をSBGが無償で取得できる権利の公正価値およびTモバイルによる現金強制転換証券を発行する信託へのTモバイル株式の売却取引に関連し、一定の条件下でSBGの子会社がTモバイル株式を取得できる権利の公正価値を加算。ドイツテレコムが保有する未行使の株式購入オプションに係るデリバティブ金融負債の金額、Tモバイル株式を活用したマージン・ローンの借入総額のうち、ノンリコースのアセットファイナンスとしている金額およびTモバイル株式を活用した先渡売買契約 (カラー契約) の満期決済金額を控除。(Tモバイル株式を活用したマージン・ローンについては、例外的にSBGが一部保証しているため、当該保証債務の上限枠を控除した金額をノンリコースのアセットファイナンスによる借入額としている)。
 - ドイツテレコム: SBGの保有株式数に同社株価を乗じて算出。同社株式を活用したカラー取引の満期決済金額を控除
 - アーム: SBGによる取得時の対価を基準とし、SVF1の保有株式数を除いて算出 (FY2021Q3まで)。SVF1において算出されたアームの全株式の公正価値に基づくSBG持分 (発行済株式の75.01%) の公正価値から、SBGが保有する同社株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額を控除して算出。
 - SB Northstar: SB NorthstarのNAV (Net Asset Value) に対するSBGの持分に、SBGが保有するNVIDIA Corporation株式数に同社株価を乗じた価値を加算して算出。SB Northstarが2020年10月に実行したアリババ株式を活用したマージン・ローンの負債残高相当額を加算して算出 (FY2021Q1まで)。
 - その他: 上場株式は、SBGの保有株式数に各上場株式の株価を乗じて算出。非上場株式はSBGが保有する未上場株式等の公正価値 (公正価値で測定していない株式等はSBGのBS上の簿価) に基づいて算出

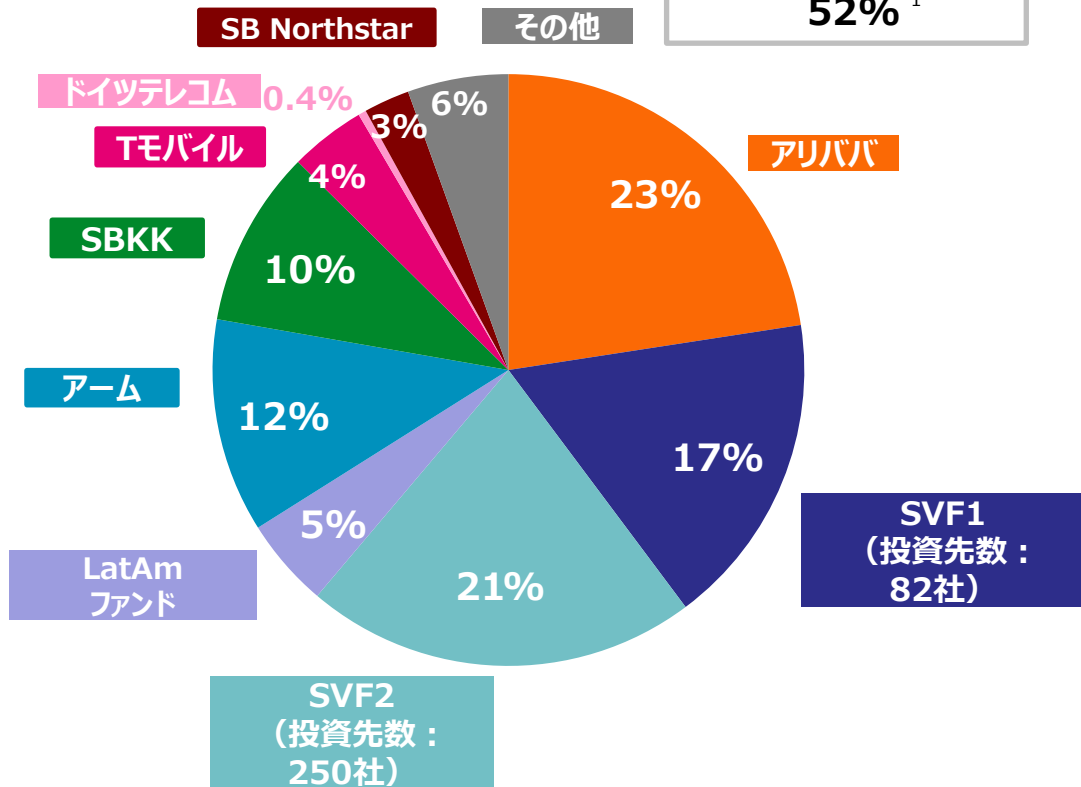
保有株式価値：ポートフォリオの分散

分散化されたポートフォリオを維持

アセットバック・ファイナンス除く

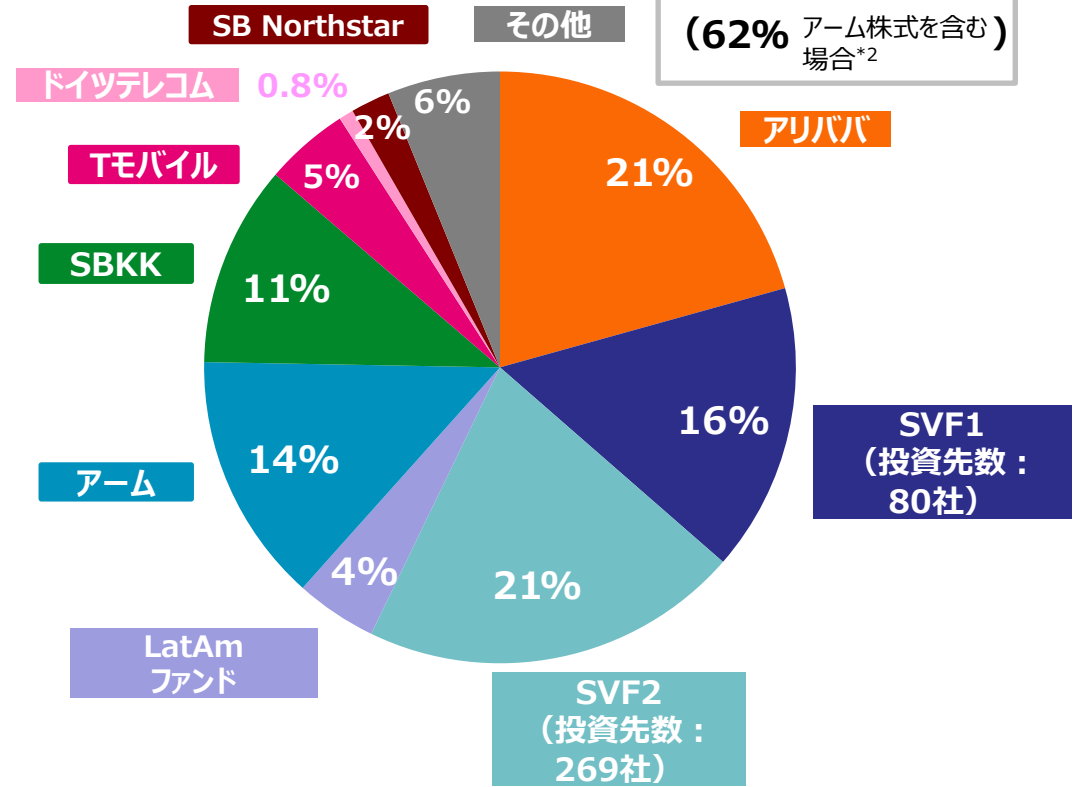
2022年3月末

上場株式の割合
(アセットファイナンス控除後)
52%^{*1}



2022年6月末

上場株式の割合
(アセットファイナンス控除後)
49%^{*1}
(62%^{*2} アーム株式を含む場合)



(注) 保有株式価値の内訳は、財務編p37を参照

*1 保有株式価値（総額）に占める、上場株式の割合。アリババ、SVF1・SVF2・LatAmファンドおよびSB Northstarが保有する上場株式、SBKK、Tモバイル、ドイツテレコム、およびその他のうちの上場株式を含む（ただし、SVF1、SVF2およびLatAmファンドはSBGの持分のみを含む）。

*2 上記*1で述べた上場株式に加えて、アーム株が上場したと仮定した場合。これはその他の開示における取り扱いと異なる可能性がある。

投資ファンドを通じた投資

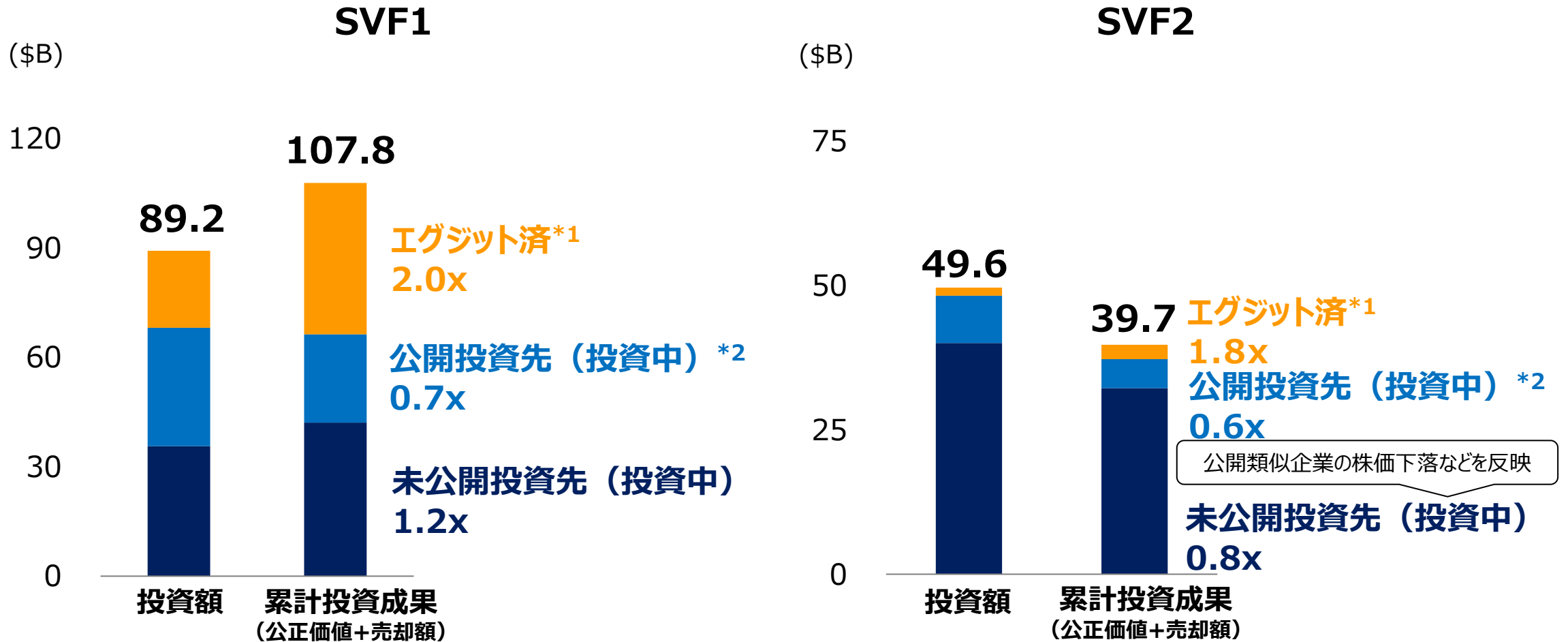
SVF1&2、LatAmファンドを通じて世界のユニコーンに投資

2022年6月末時点

	ソフトバンク・ビジョンファンド1 (SVF1)	ソフトバンク・ビジョンファンド2 (SVF2)	ラテンアメリカ・ファンド (LatAmファンド)
出資コミットメント	986億米ドル	560億米ドル	76億米ドル
投資開始年 現在の投資フェーズ	2017年 回収期間 (&フォローオン投資)	2019年 投資期間	2019年 投資期間
投資対象	AI&ユニコーン		
ポートフォリオ/ 保有投資先数	ByteDance coupang Fanatics 等 合計 80社	AutoStore inMOBI yanolja 等 合計 269社	KAVAK QuintoAndar Gympass 等 合計 88社
保有投資先 公正価値合計	663億米ドル	372億米ドル	69億米ドル

SVF1&2：累計投資成果（SBG連結ベース、2022年6月末時点）

累計投資成果はSVF1で\$107.8B、SVF2で\$39.7B

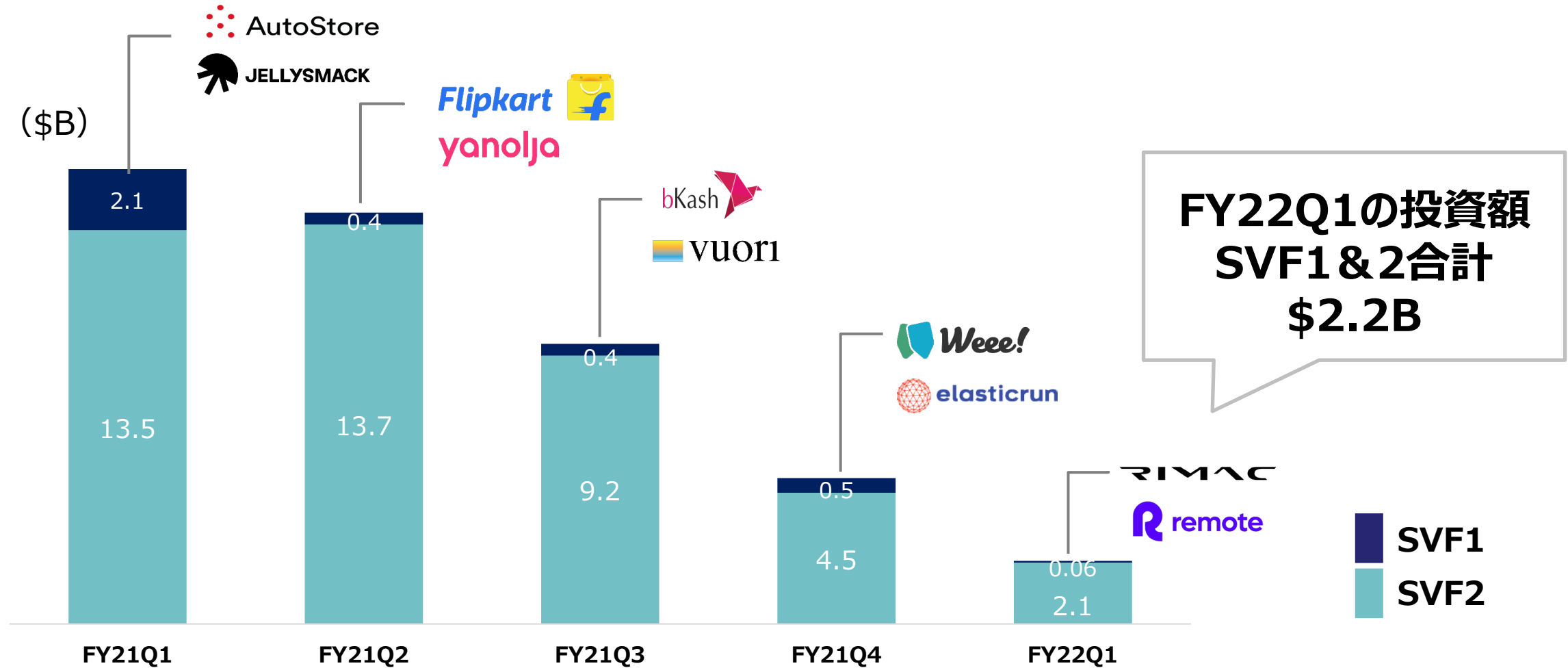


(注)

- ・ 当社からSVF1への移管が決定されていたものの実行されなかった投資について、移管の取りやめを決定するまでの期間に発生した未実現評価損益は含めていない。
- ・ 外部投資家持分および税金等の控除前
- *1 エグジット済には、投資に係るデリバティブ関連損益(未決済のデリバティブを含む) および投資先からの利息や配当金を含む。
- *2 公開投資先には店頭市場で取引されている株式への投資を含む。

SVF1&2 : 投資額 (FY21-FY22Q1)

前年同期に比べ投資を大幅にスローダウン





SVF1&2：新規公開および資金化（FY22Q1）

計3銘柄の新規公開に加え、\$4.1Bを資金化*

■新規公開：3銘柄

<p> SVF1</p> <p> </p>	<p> SVF2</p> <p></p>
---	--

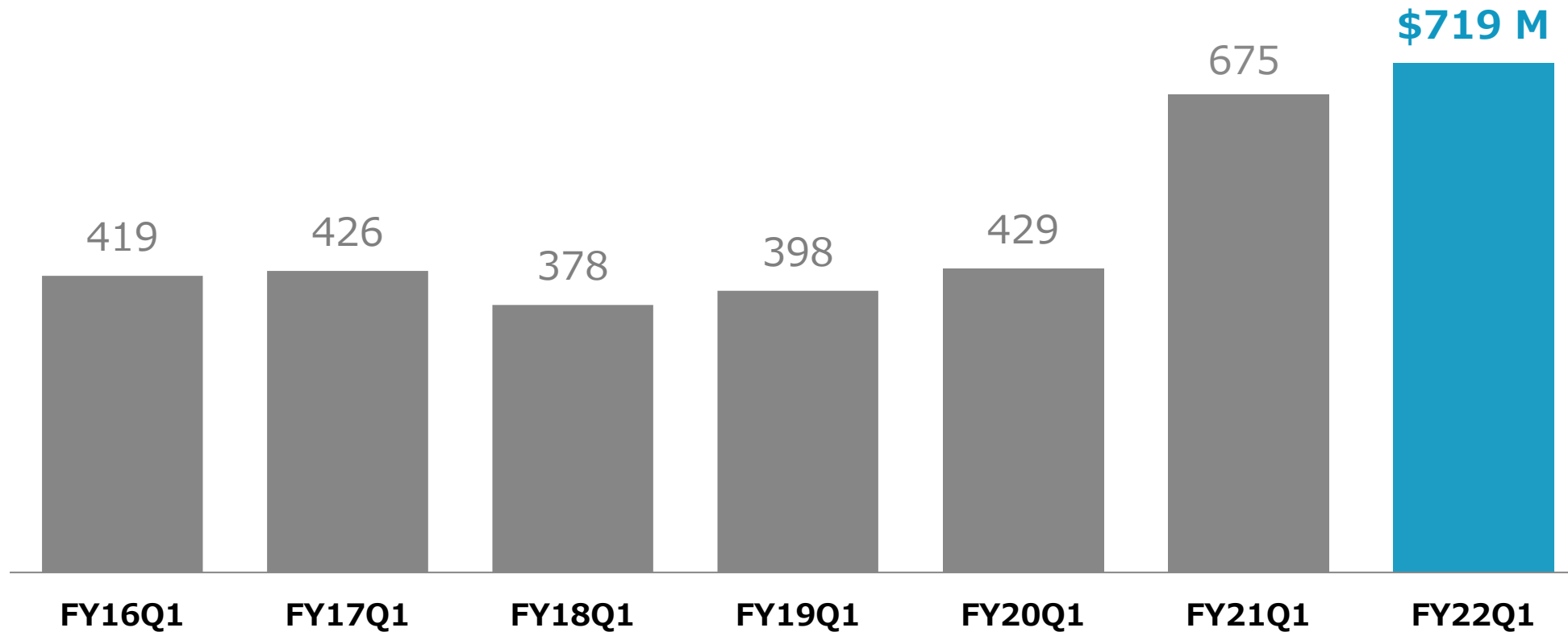
■売却・資金化*：SVF1 \$3.8B、SVF2 \$0.3B

<p> SVF1：全売却2銘柄、一部売却5銘柄</p> <p> 等</p>	<p> SVF2：全売却1銘柄</p> <p></p>
---	--

* アセットバック・ファイナンスを含む。

アーム：売上高（3カ月）

(\$M)



- (注)
- ・ 出所：アーム
 - ・ FY17Q1以降：ISG事業を除く。
 - ・ ISG事業：Internet-of-Things Services Group；IoTに関連するサービスグループ
 - ・ IFRSを基準としているが、完全に準拠しているとは限らない。
 - ・ 全ての数字は未監査であり、方向性を示す目的としてのみ情報を提供する。
 - ・ 全ての数字は暫定的なものであり、変更になる可能性がある。
 - ・ SBG、SVF1、SVF1のジェネラル・パートナー又はSBIAが情報の正確性を保証するものではなく、情報を更新する義務を負わない。

- 投資事業の状況
- **財務の状況**
- 財務戦略
- ESGの推進

FY22Q1の主な財務活動

アセットバック・ファイナンスを中心とした資金調達により守りを堅固に

銀行借入	短期借入	
	コミットメントラインに基づく借入金の返済（4月）	-\$4.5B (-5,807億円)
アセットを活用した資金調達	アーム株式	
	アセットバック・ファイナンス（増額）（6月）	+\$0.5B (+645億円)
	アリババ株式	
	フォワード取引（4月、5月、6月）	+\$10.5B (+13,537億円)
	Tモバイル株式	
	ドイツテレコムへの売却（4月）	+\$2.4B (+3,097億円)
	マージン・ローンの返済（4月）	-\$1.2B (-1,542億円)

(注) 1ドル=129.04 (期中平均レート) にて算出

手元流動性

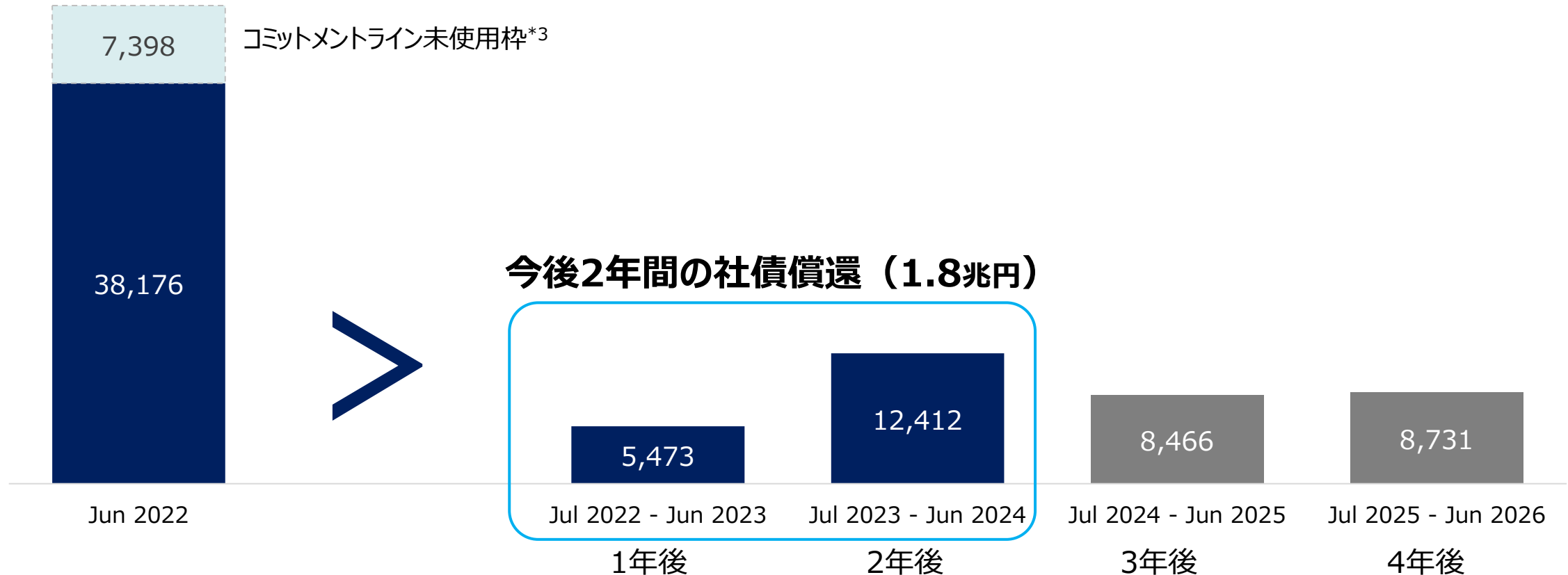
社債償還2年分を大幅に超える潤沢な手元流動性を維持

手元流動性

社債償還スケジュール*2

4.6兆円*1 (今後4年間の社債償還を優に超える水準)

(億円)



*1 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資 + コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース (SB Northstarを除く)

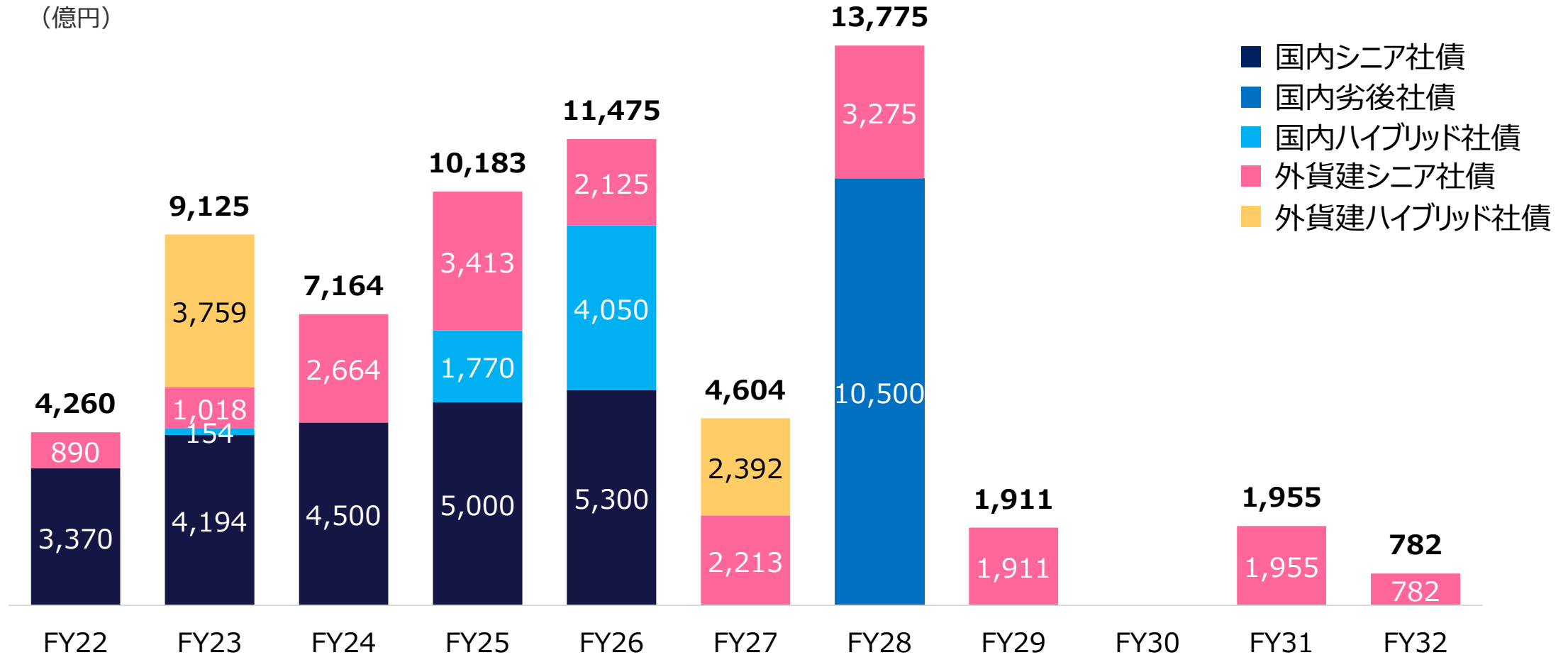
*2 社債償還金額はバイバックにより取得した社債を除く。

*3 2022年6月末時点のコミットメントライン総額7,398億円は全額未使用

社債償還スケジュール

手元流動性および市場環境を考慮した起債運営により償還対応

(億円)



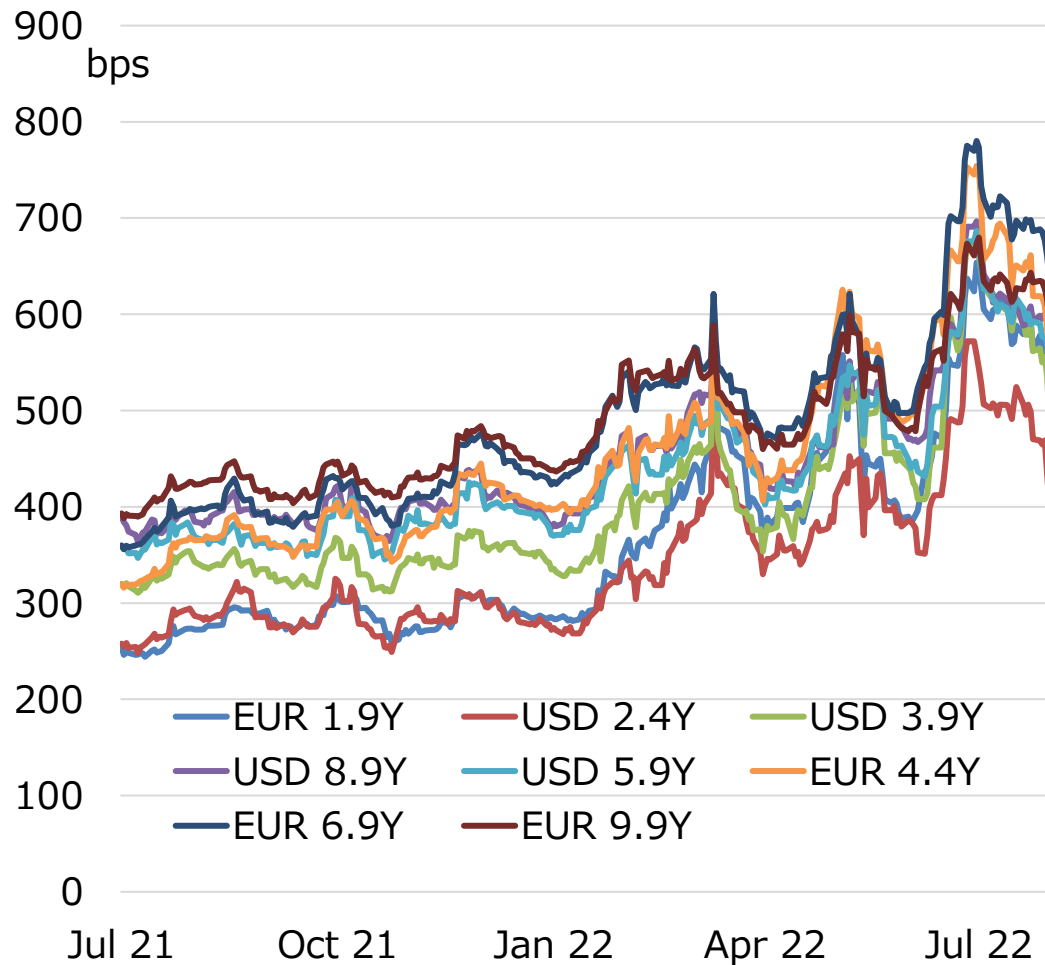
(注)

- 2022年6月30日時点発行残高
- ハイブリッド社債は、すべて初回コール日に早期償還するケース
- 外貨建社債は、スワップを締結しているものはスワップレートにて換算、それ以外は1ドル=136.68円、1ユーロ=142.67円にて換算
- バイバックにより取得した社債を除く。

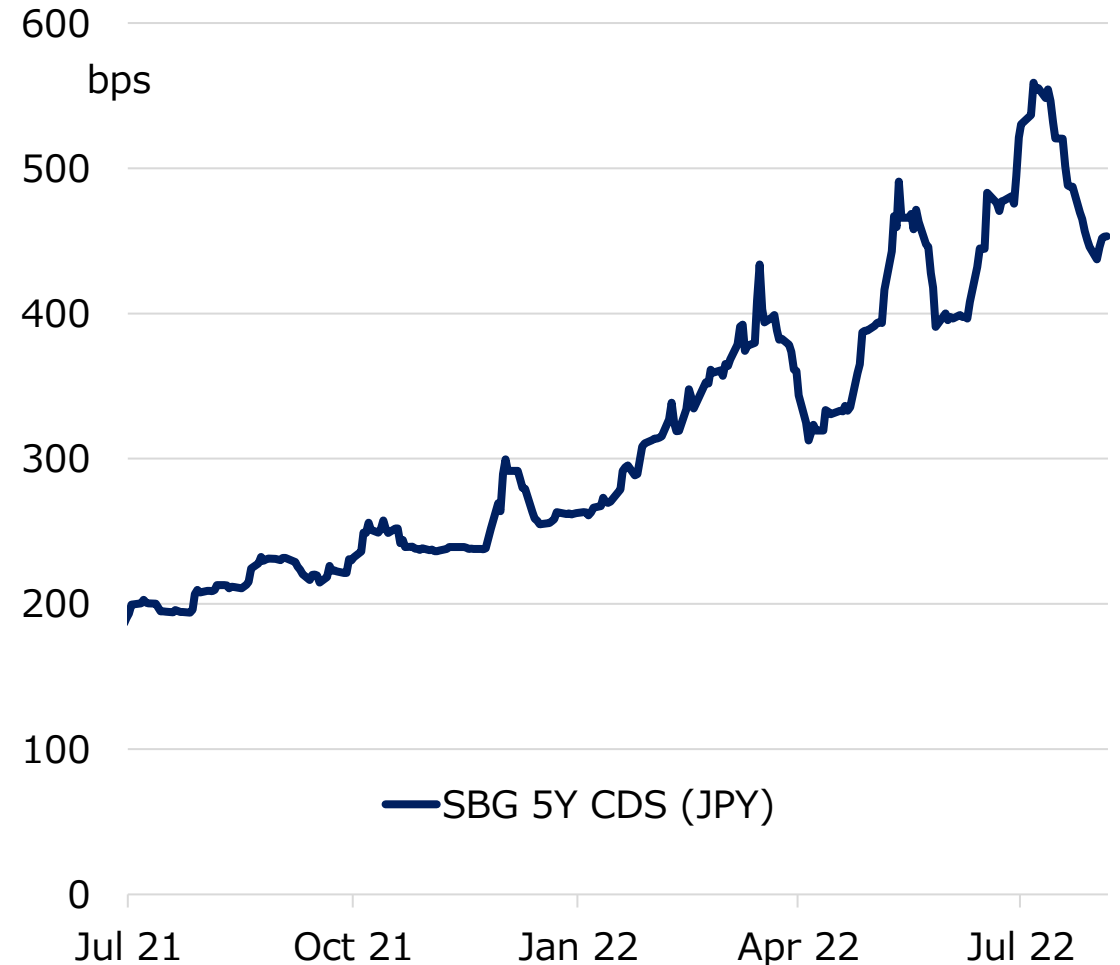
当社クレジットスプレッドの状況

クレジットスプレッドはワイド化基調ながら、足元はタイト化

SBG外債スプレッド



SBG 5年CDS

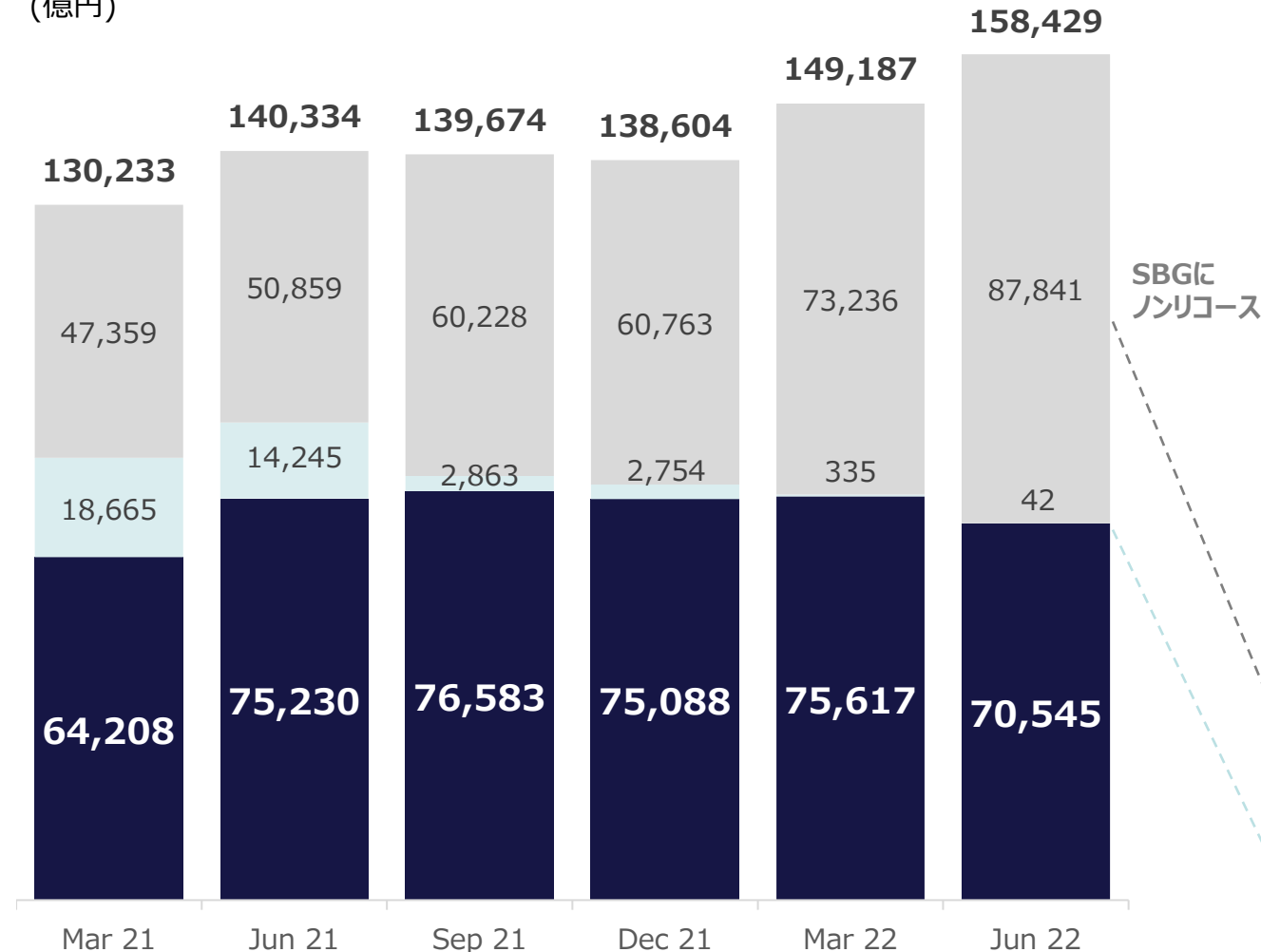


(注) 2022年8月5日時点。Bloombergを基に当社作成。2021年7月発行のシニア外債のZスプレッドを参照

SBG単体 有利子負債*1

ノンリコース分除く有利子負債は減少

(億円)



2022年3月末からの主な変動要因

- アーム株式を活用したアセットバック・ファイナンス (増額) +\$0.5B
- アリババ株式を活用した株式先渡売買契約の締結 +\$10.5B
- アリババ株式を活用した株式先渡売買契約の現物決済 -6,049億円
- Tモバイル株式を活用したマージン・ローンの一部返済 -\$1.2B
- コミットメントラインに基づく借入金の返済 -\$4.5B

2022年6月末 内訳 (億円)

SBG 借入金	
銀行ローン	6,150
ハイブリッドローン	836
その他	8
小計	6,994
SBG 社債・CP	
国内シニア債	22,272
国内劣後債/ハイブリッド債	16,247
外債	21,685
CP	2,375
小計	62,579
SBG リース負債	
	117
子会社 有利子負債	
株式先渡契約金融負債	58,071
ドイツテレコム株式を活用したカラー取引	4,336
アーム株式を活用したアセットバック・ファイナンス	11,443
マージン・ローン (SBGにノンリコース*2)	13,992
(SBGにリコース*2)	353
SB Northstar	42
その他	502
小計	88,739

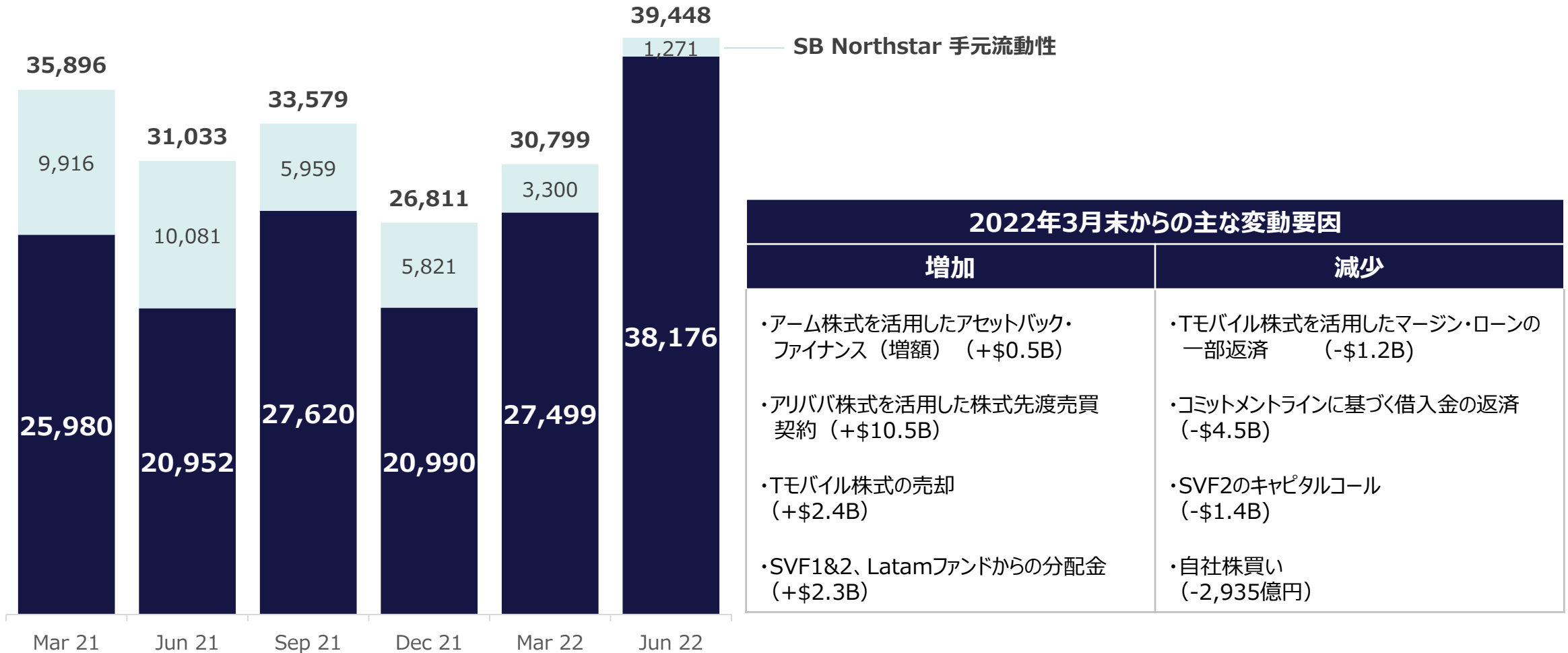
合計 158,429

*1 SBG連結外部に対する有利子負債およびリース負債の合計
 *2 Tモバイル株式を活用したマージン・ローン(借入総額\$0.87B)については、例外的にSBGが一部保証しているため、当該保証債務の上限枠(\$0.26B)を控除した金額をノンリコースのアセットファイナンスによる借入額とする。尚、SBGが当該保証を履行する前提条件として、金融機関はまず当該マージン・ローンの担保に供されているアリババ株式から最大限回収を図ることが義務付けられている。

SBG単体 手元流動性

アセットバック・ファイナンスでの資金調達などにより手元流動性は増加

(億円)



2022年3月末からの主な変動要因	
増加	減少
・アーム株式を活用したアセットバック・ファイナンス (増額) (+\$0.5B)	・Tモバイル株式を活用したマージン・ローンの一部返済 (-\$1.2B)
・アリババ株式を活用した株式先渡し売買契約 (+\$10.5B)	・コミットメントラインに基づく借入金の返済 (-\$4.5B)
・Tモバイル株式の売却 (+\$2.4B)	・SVF2のキャピタルコール (-\$1.4B)
・SVF1&2、Latamファンドからの分配金 (+\$2.3B)	・自社株買い (-2,935億円)

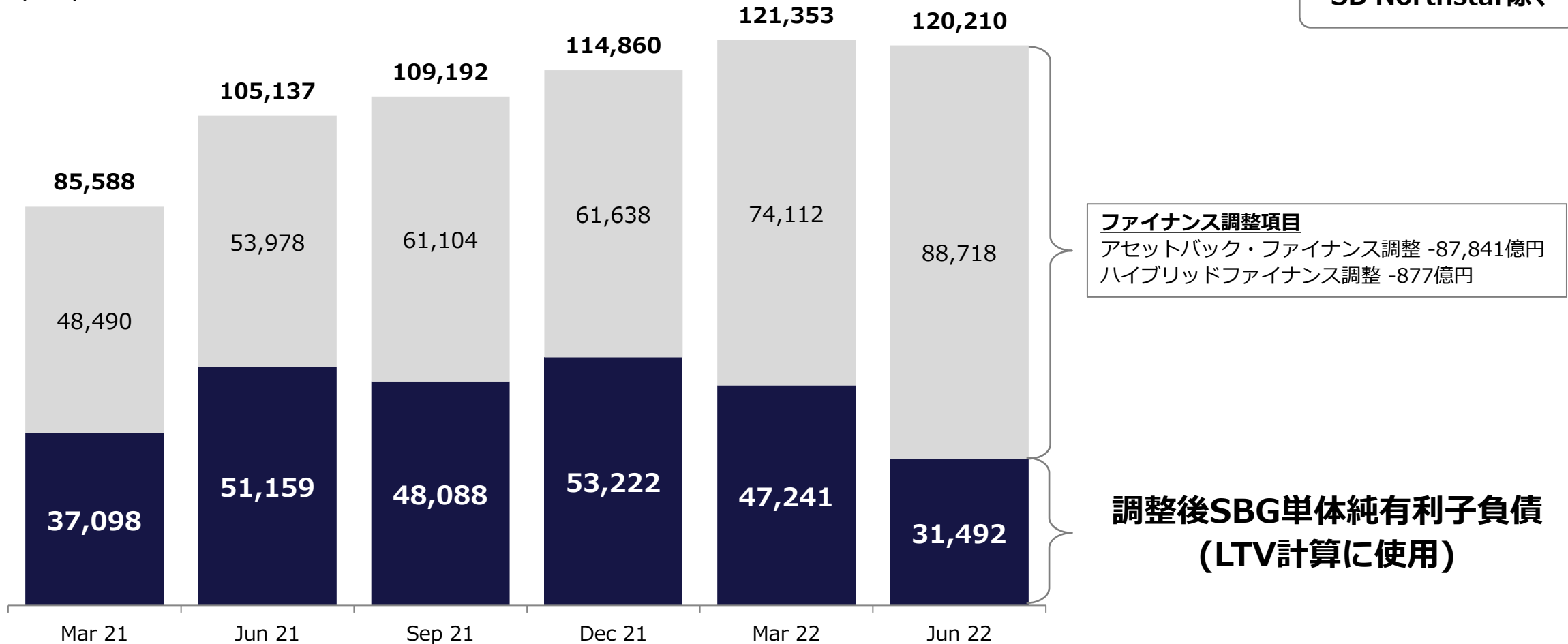
(注) 手元流動性 = 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資(資産運用子会社からの投資等)。SBG単体ベース

SBG単体 純有利子負債

資金化加速により、調整後純有利子負債は減少

(億円)

SB Northstar除く

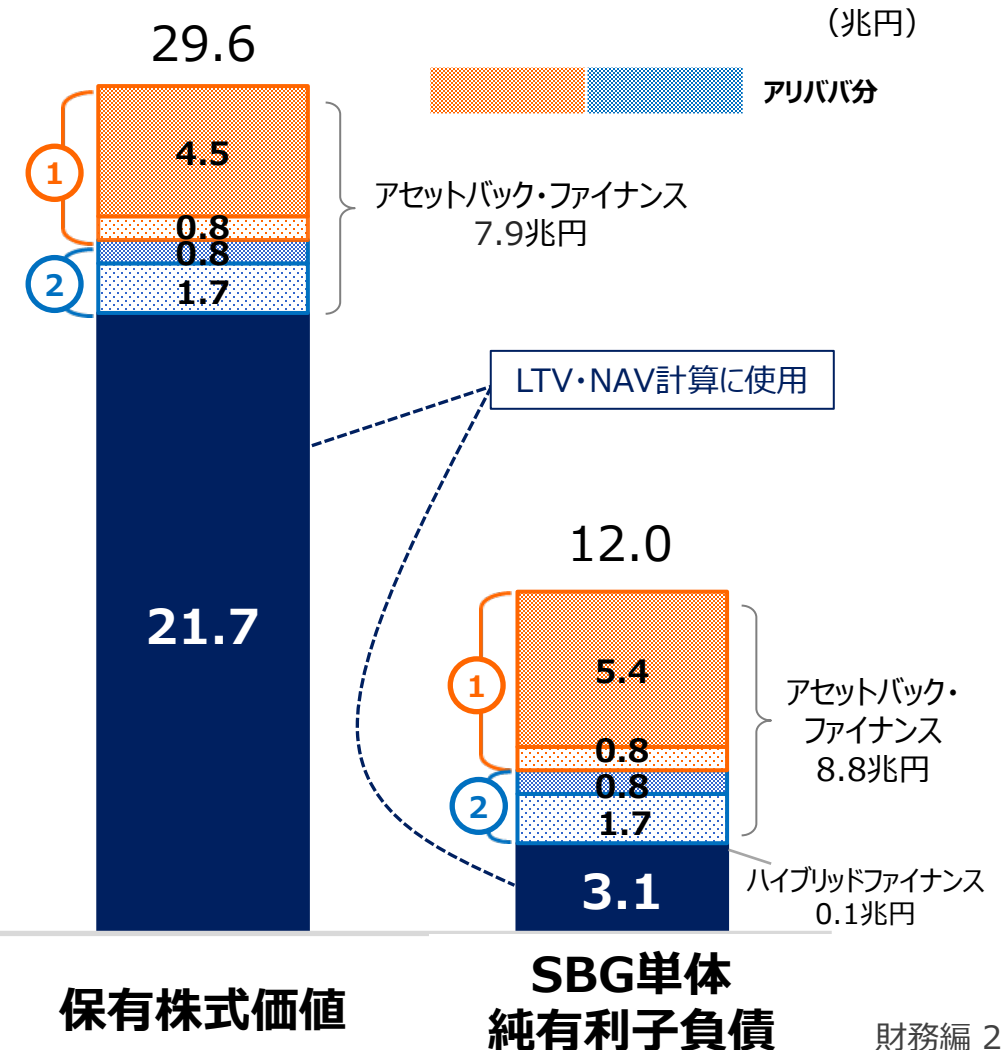


(注) 詳細は、Appendix「LTVの算出：SBG単体 純有利子負債」に記載

LTV・NAV計算におけるアセットバック・ファイナンス調整

ノンリコースのアセットバック・ファイナンスはデットから控除
同時に、決済に必要となるアセット価値をアセットから控除

	① フォワード／カラー／プット	② マージンローン等
対象株式	アリババ／Tモバイル／ドイツテレコム	アリババ／Tモバイル／SBKK／アーム
内容	株式先渡契約*1に基づく資金調達 (SBGにノンリコース)	株式を担保に借入を行う資金調達 (SBGにノンリコース)
デット 控除額	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスシート計上金額 ・株価に関係なく不変 	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスシート計上金額 ・株価に関係なく不変
アセット 控除額	<ul style="list-style-type: none"> ・期末株価を基に算出した満期決済金額の想定額 ・株価水準によって変動 	返済に必要なアセット相当額 (バランスシート上のデット計上額)
株価下落の 影響	<ul style="list-style-type: none"> ・フロア価格を下回る株価では受渡金額が減少 ・追加担保等や期限前返済は不要 	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の株価水準を下回る場合、追加担保や期限前返済が必要 ・返済金額は不変



*1 あらかじめ合意された価格（フォワード）または価格レンジ（カラー・プット）で満期に対象株式を売買する契約を締結する。

- 投資事業の状況
- 財務の状況
- **財務戦略**
- ESGの推進

投資会社として最適な財務運営体制をすでに確立

①財務方針の堅持

②あらゆる変化に
対応できる柔軟かつ
機動的な財務運営

①財務方針の堅持

1. 通常時 LTV25%未満 で運用 (異常時でも上限35%)

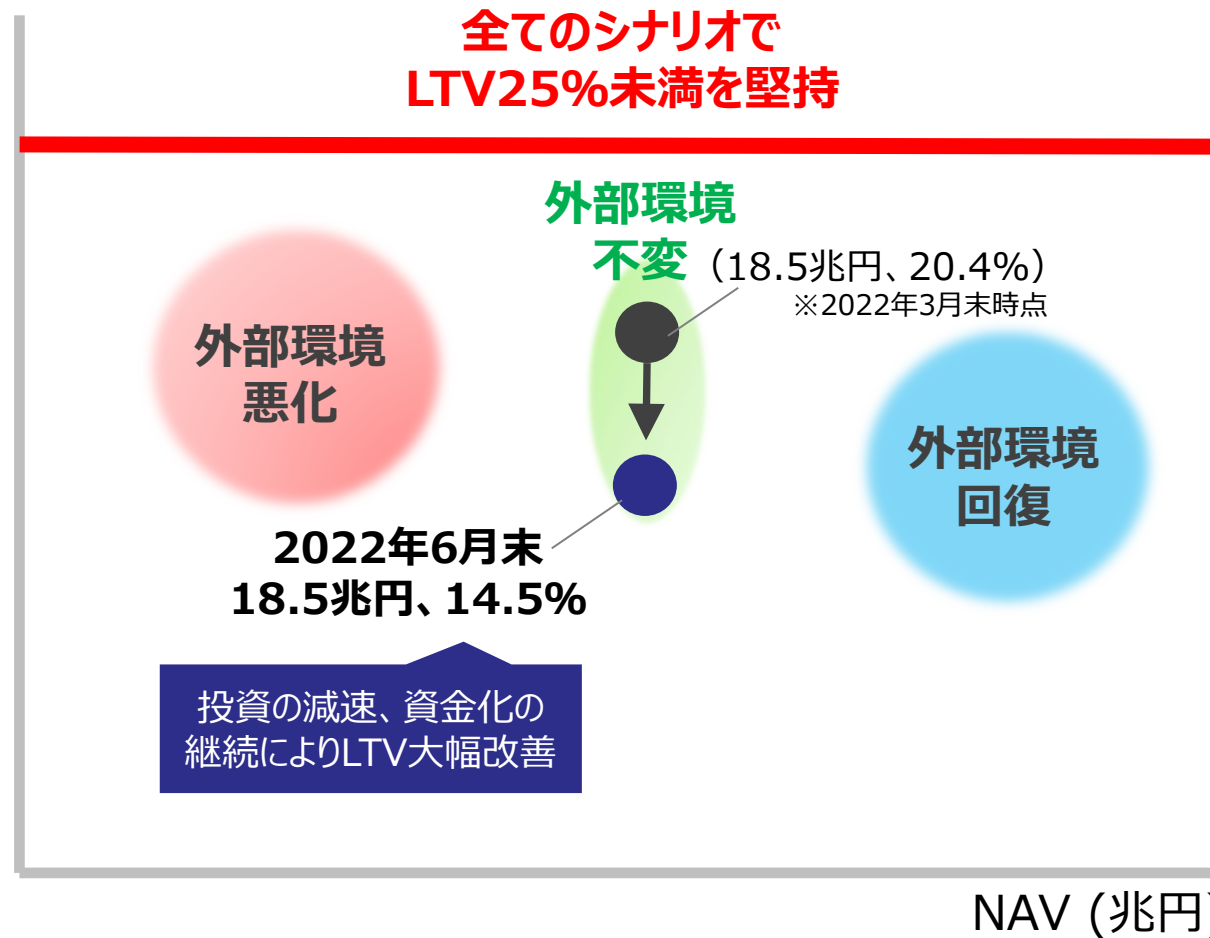
2. 少なくとも 2年分の社債償還資金 を保持

3. SVF1&2や子会社から 継続的な配当収入 を確保

FY22の財務運営方針（イメージ）

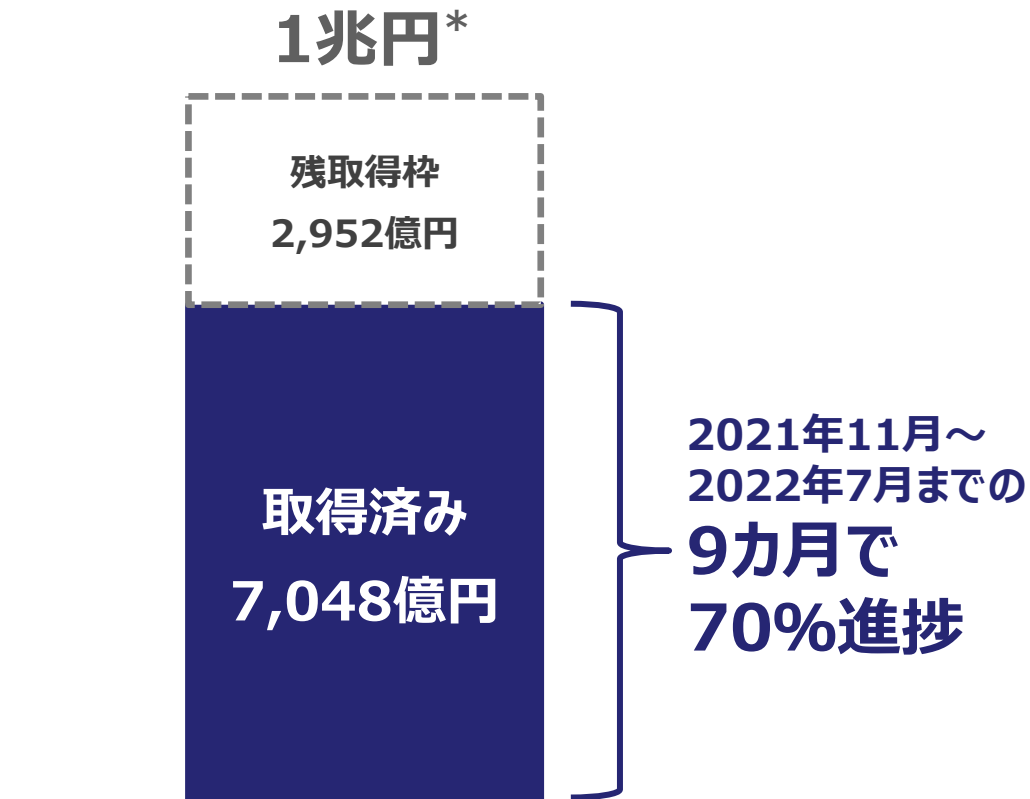
外部環境のあらゆる変化に柔軟かつ機動的に対応可能

LTV (%)



シナリオ	前提	対応方針
外部環境 不変	外部環境の不透明さが継続し、保有株式価値が2022年3月末から 不変	資金化の範囲内で新規投資と自社株買いを継続
外部環境 回復	外部環境が回復し、保有株式価値が2022年3月末から 増加	LTVを維持しながら投資加速のためのレバレッジ活用も視野に
外部環境 悪化	外部環境がさらに悪化し、保有株式価値が2022年3月末から 減少	資金化対比で 新規投資を大幅にスロウダウンすること でLTV25%未滿を維持

2021年11月8日取締役会決議に基づく取得の進捗



2022年8月8日取締役会決議 4,000億円の取得枠設定

- 総額
4,000億円（上限）
 - 取得期間
2022年8月9日～2023年8月8日
- 財務方針・投資機会・NAVディスカウント等を考慮のうえ実施
（上記のバランス次第では取得期間内に4,000億円の上限に達しない可能性あり）

* 財務方針・投資機会・NAVディスカウント等を考慮のうえ実施。これらのバランス次第では2021年11月9日～2022年11月8日の取得期間内に1兆円の上限に達しない可能性あり

- 投資事業の状況
- 財務の状況
- 財務戦略
- **ESGの推進**

サステナビリティ推進体制のさらなる強化

体制の強化

- サステナビリティ部として独立部門を新設
- より機動的な対応を目指し、IR部長 兼 サステナビリティ部長がCSusOを務める
- CFOの後藤は、引き続きサステナビリティを担当する取締役役としてコミット

サステナビリティとIRを一体で推進

1. 当社の本質的な取組みを投資家等ステークホルダーに対し情報発信強化
2. 投資家等ステークホルダーの期待の理解と施策への反映
3. 増加するESG投資資金の取込み



中長期的な株主価値の向上に貢献

FY22の取り組み概要：環境

TCFD開示

- SBG、SBKK：TCFD提言に基づく気候変動情報開示完了（2022年6月）
- SBIA、Arm：2024年開示に向けて準備中

温室効果ガス削減グループ目標設定と達成に向けたグループ連携強化

- グループ目標設定（2022年6月）：『2030年度までにカーボンニュートラル達成』
- グループ目標達成に向けグループ連携強化（各社におけるマイルストーン設定等）

			Z HOLDINGS	
目標	<p>2030年までに ネットゼロカーボン達成</p>	<p>2030年度までに カーボンニュートラル達成</p>	<p>2030年度までに ZHDグループ全社で カーボンニュートラル達成</p>	<p>2023年度までに 自社使用エネルギーの 100%再エネ化</p>
進捗	<p>FY21：自社使用電力の 再エネ比率98%達成</p>	<p>FY21：基地局使用電力の 再エネ比率53.5%達成</p>	<p>FY21：グループ使用エネルギーの 再エネ比率37%達成</p>	<p>FY21：自社使用エネルギーの 再エネ比率59%達成</p>

FY22の取り組み概要：社会・ガバナンス

人権への取り組みの推進

- 人権アンケートで特定されたリスク分野に関する**研修・モニタリング等を実施**
- 取引先に対するモニタリングを開始、子会社への展開につなげる

FY21	FY22	FY23
SBG人権アンケート → 分析	研修 → モニタリング → 分析	継続実施
	取引先実施検討 → 取引先実施	継続実施
		子会社展開検討 → 子会社展開

ESGに関するグループポリシーの整備

- 引き続き重要性の高いESG領域に関するグループポリシーを整備し、グループ全体でESGを推進
- 税務ポリシー開示完了**（2022年7月）、AI倫理ポリシー開示予定（2022年10月）

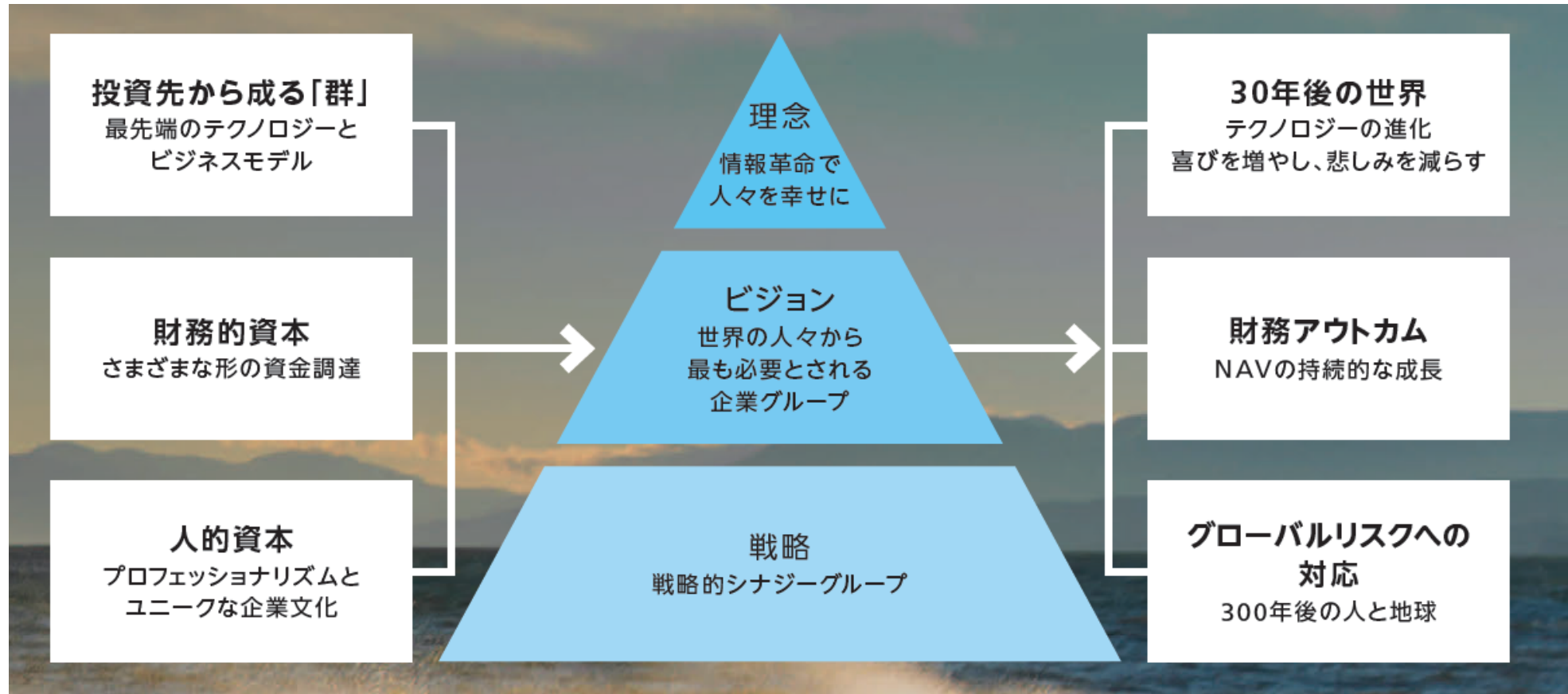
FY21開示済			FY22新設（含予定）	
人権ポリシー	環境ポリシー	サプライヤー行動規範	税務ポリシー	AI倫理ポリシー

グループサステナビリティ・ガバナンス体制の強化

- グループポリシーの浸透やグループ目標達成に向けて、グループ一体でサステナビリティを推進する体制を構築

ソフトバンクグループレポートの発行

- 従来のアニュアルレポートを、非財務情報を統合した「ソフトバンクグループレポート」として刷新
- ソフトバンクグループの投資活動と、理念・ビジョン・戦略の関係を示し、ステークホルダーとの対話の促進や「志」の共有を目指す



[ソフトバンクグループレポート2022はこちら](#)

Appendix

2022年6月末：保有株式価値（算出方法）

1USD=136.68円

29.6兆円
(調整前)

(兆円)

アリババ 4.5
Tモバイル 0.4
ドイツテレコム 0.4

アリババ 0.8
SBKK 0.5
Tモバイル 0.1
アーム 1.1

21.7兆円
(調整後)

ドイツテレコム
0.2



保有株式価値
(調整後)

4.5兆円

アリババ連結簿価:4.6兆円

2.4兆円

3.4兆円

4.5兆円

1.0兆円

1.0兆円

0.2兆円

3.0兆円

=

保有株式価値
(調整前)

9.8兆円

保有株式数 633百万株*1 × 株価 \$113.7*1

2.9兆円

保有株式数 1,915百万株 × 株価 1,507円

3.4兆円

各ファンドの
保有資産価値相当 × SBG
持分
+ 成功報酬等

4.5兆円

1.0兆円

1.5兆円

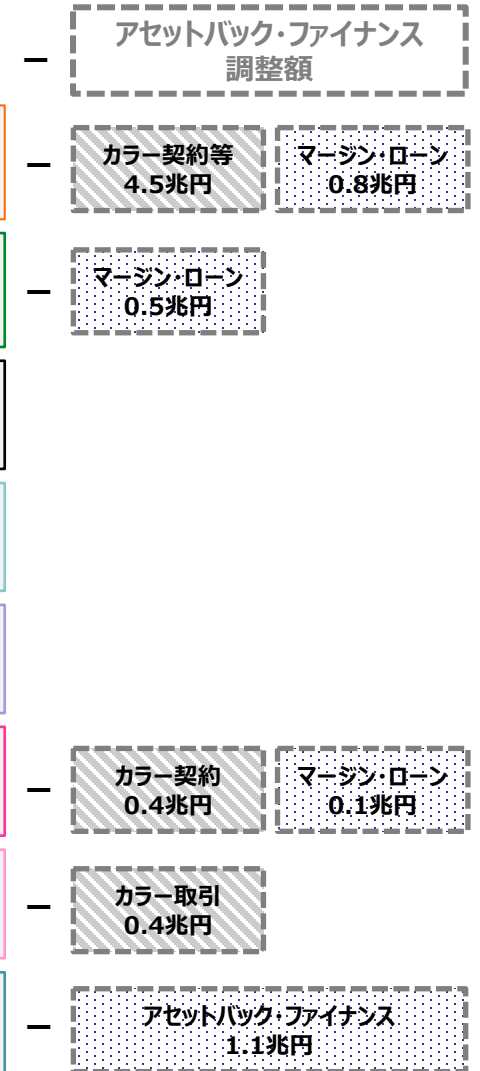
保有株式数 40百万株*2 × 株価 \$134.54 + 条件付
対価*3

0.6兆円

保有株式数 225百万株 × 株価 €18.95

4.1兆円

公正価値 × SBG
持分

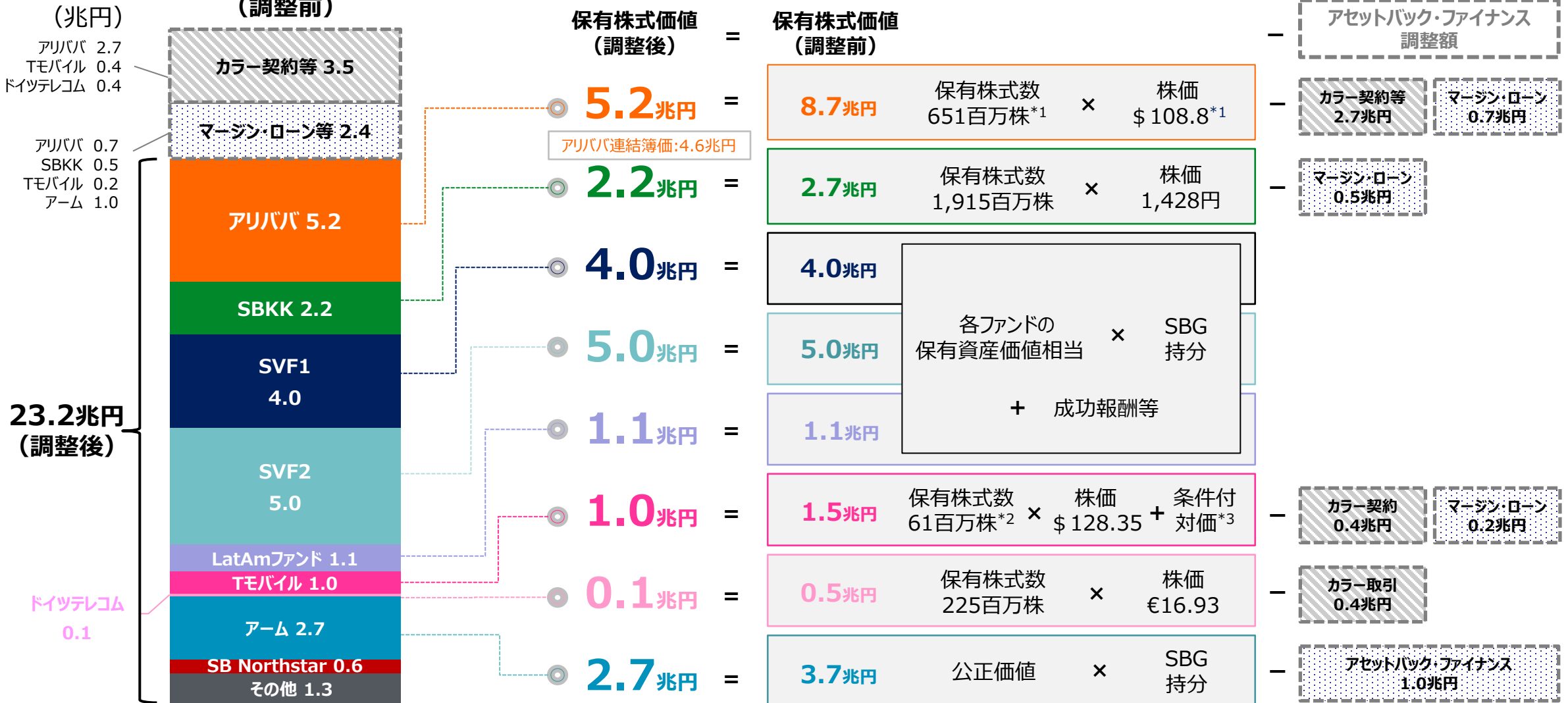


(注) 各計算式の詳細はp40~41,43参照。 *1 SBGの保有株式数に相当する米国預託証券数および同証券の株価

*2 ドイツテレコムが保有する株式購入オプションの対象となる株式数を含む。 *3 一定の条件下でTモバイル株式をSBGとその子会社が取得できる権利の公正価値

(参考) 2022年3月末：保有株式価値（算出方法）

1USD=122.39円



Mar 22

*1 SBGの保有株式数に相当する米国預託証券数および同証券の株価

*2 ドイツテレコムが保有する株式購入オプションの対象となる株式数を含む。

*3 一定の条件下でTモバイル株式をSBGとその子会社が取得できる権利の公正価値

LTVの算出：SBG単体 保有株式価値

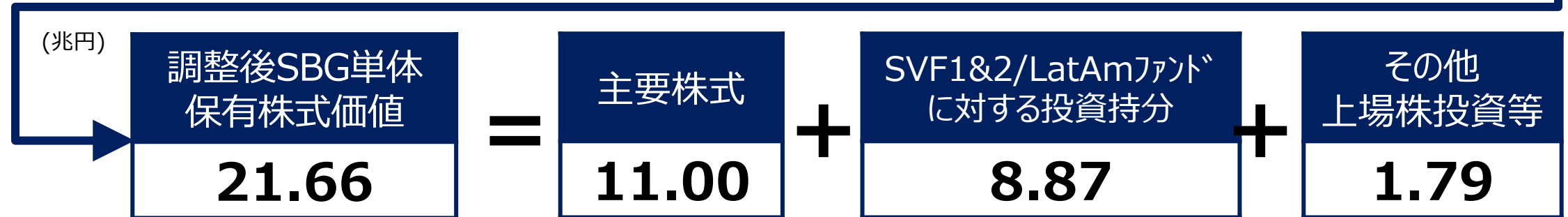
(L) 調整後 SBG単体 純有利子負債

3.15兆円

= 14.5%

(V) 調整後
SBG単体 保有株式価値*1

21.66兆円



アリババ	+9.84	SBKK	+2.88	Tモバイル	+1.47	SVF1	+3.41	SB Northstar	+0.47
アセットバック・ファイナンス	-5.36	アセットバック・ファイナンス	-0.50	アセットバック・ファイナンス	-0.47	SVF2	+4.50	その他	+1.33
アリババ (調整後)	+4.48	SBKK (調整後)	+2.39	Tモバイル (調整後)	+1.00	LatAm ファンド	+0.96		
ドイツテレコム	+0.61	アーム	+4.10						
アセットバック・ファイナンス	-0.43	アセットバック・ファイナンス	-1.14						
ドイツテレコム(調整後)	+0.17	アーム (調整後)	+2.96						

*1 調整後SBG単体保有株式価値の各アセット別の詳細についてはp40~41を参照

LTVの算出：SBG単体 保有株式価値 詳細①

(兆円)

保有株式	金額	計算方法
(a) アリババ	4.48	
調整前	9.84	SBGの保有株式数に相当する米国預託証券数×同証券の株価
アセットバック・ファイナンス調整	-5.36	下記のアセットバック・ファイナンスの決済に必要な金額を控除 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の先渡し買戻契約（フロア契約・カラー契約・フォワード契約・コールスプレッド）のうち、未決済分の満期決済金額（2022年6月30日の同社株価（米国預託証券）で算出）の合計額（4兆5,432億円） ・マージン・ローン負債残高相当額（8,177億円）
(b) SBKK	2.39	
調整前	2.88	SBGの保有株式数×同社株価
アセットバック・ファイナンス調整	-0.50	SBKK株式を活用したマージン・ローン負債残高相当額（4,990億円）
(c) SVF1	3.41	SVF1の保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込み金額等
(d) SVF2	4.50	SVF2の保有資産価値相当に対するSBGの持分等
(e) LatAmファンド	0.96	LatAmファンドの保有資産価値相当に対するSBGの持分+成功報酬の見込み金額
(f) アーム	2.96	
調整前	4.10	SVF1において算出されたアームの全株式の公正価値に基づくSBG持分（発行済株式の75.01%）の公正価値
アセットバック・ファイナンス調整	-1.14	SBGが保有する同社株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額（1兆1,443億円）

LTVの算出：SBG単体 保有株式価値 詳細②

(兆円)

保有株式	金額	計算方法
(g) Tモバイル	1.00	
調整前	1.47	SBGの保有株式数（ドイツテレコムが保有する株式購入オプションの対象となる株式数（2022年6月末時点：34,971,809株）を含む）×同社株価 + 一定の条件下でTモバイル株式（48,751,557株）をSBGが無償で取得できる権利の公正価値 + Tモバイルによる現金強制転換証券を発行する信託へのTモバイル株式の売却取引に関連して受領した、一定の条件下でSBGの子会社がTモバイル株式を取得できる権利の公正価値
アセットバック・ファイナンス調整	-0.47	下記のアセットバック・ファイナンスの決済に必要な金額を控除 ・ドイツテレコムが保有する未行使の株式購入オプションに係るデリバティブ金融負債 ・Tモバイル株式を活用したマージン・ローンの負債残高相当額（1,177億円）のうち、ノンリコースのアセットバック・ファイナンスとしている金額（824億円）*1 ・Tモバイル株式を活用した先渡売買契約（カラー契約）の満期決済金額（同社株価で算出）（3,911億円）
(h) ドイツテレコム	0.17	
調整前	0.61	SBGの保有株式数×同社株価
アセットバック・ファイナンス調整	-0.43	2021年10月に実行した同社株式を活用したカラー取引の満期決済金額（4,340億円）
(i) SB Northstar	0.47	SB NorthstarのNAV（Net Asset Value）に対するSBGの持分 + SBGが保有するNVIDIA Corporation株式数×同社株価
(j) その他	1.33	上場株式：SBGの保有株式数×各上場株式の株価 非上場株式：SBGが保有する未上場株式等の公正価値 （公正価値で測定していない株式等はSBGのBS上の簿価）に基づいて算出
SBG単体 調整後保有株式価値	21.66	P40からの(a)～(j)までの合計額

*1 Tモバイル株式を活用したマージン・ローン（借入総額\$0.87B）については、例外的にSBGが一部保証しているため、当該保証債務の上限枠（\$0.26B）を控除した金額をノンリコースのアセットバック・ファイナンスによる借入額としている。

LTVの算出：SBG単体 純有利子負債

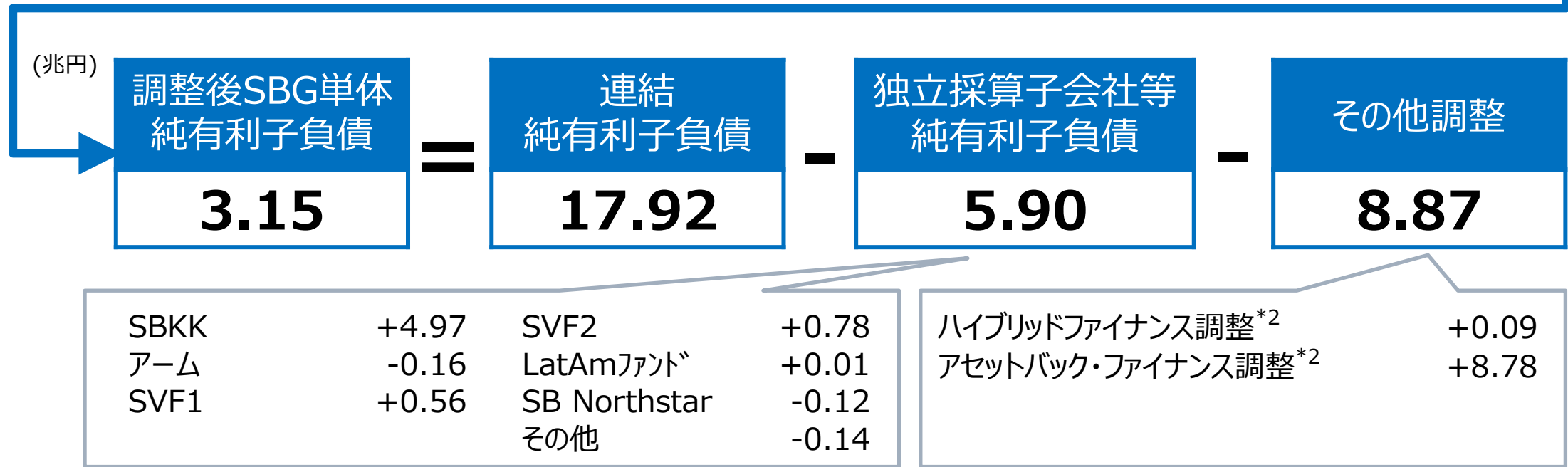
(L) 調整後
SBG単体 純有利子負債*1

3.15兆円

=14.5%

(V) 調整後SBG単体 保有株式価値

21.66兆円



*1 各事業の純有利子負債はSBG連結外部に対する有利子負債のみ。PayPay銀行の「銀行業の預金－手元流動性」は含まない。

*2 詳細についてはp43を参照

LTVの算出：SBG単体 純有利子負債 詳細

(兆円)

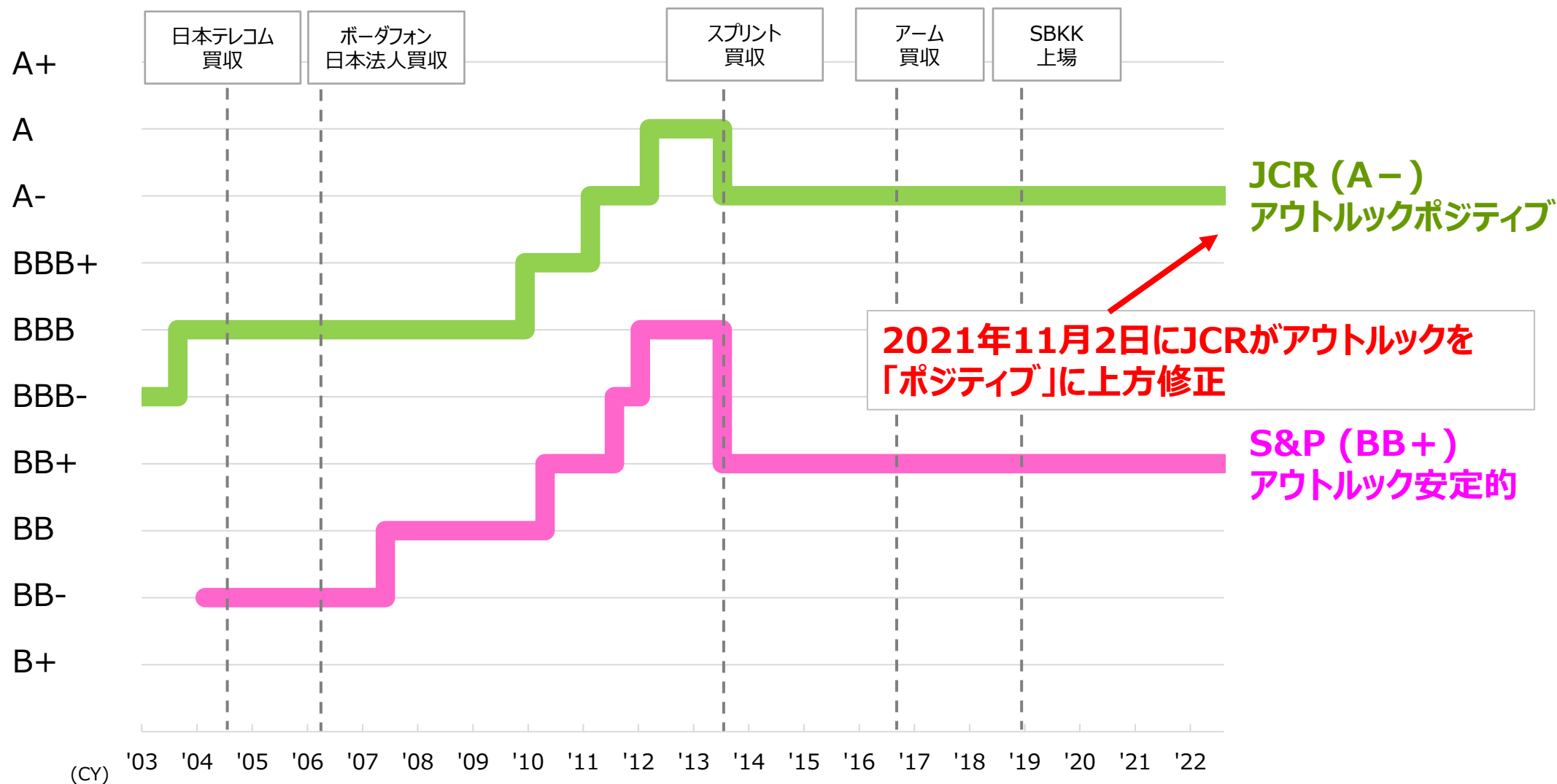
SBG単体 調整前純有利子負債		12.02	連結純有利子負債-独立採算子会社等の純有利子負債
ハイブリッドファイナンス調整	-0.09		<ul style="list-style-type: none"> ・2017年7月発行のハイブリッド債は、連結会計上、全額が資本計上されているため50%を有利子負債に算入 ・2016年9月・2021年2月・2021年6月発行のハイブリッド債および17年11月実行のハイブリッドローンは、連結会計上、全額が負債計上されているため50%を有利子負債から控除
アセットバック・ファイナンス調整	-8.78		
アリババ	-6.24		<ul style="list-style-type: none"> ・アリババ株式を活用した複数の先渡し買契約（フロア契約・カラー契約・フォワード契約）に係る株式先渡し契約金融負債（5兆4,257億円） ・アリババ株式を活用したマージン・ローン負債残高相当額（8,177億円）
アーム	-1.14		同社株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額（1兆1,443億円）
Tモバイル	-0.46		<ul style="list-style-type: none"> ・Tモバイル株式を活用したマージン・ローンの負債残高相当額（1,177億円）のうち、ノンリコースのアセットバック・ファイナンスとしている金額（824億円）^{*1} ・Tモバイル株式を活用した先渡し買契約（カラー契約）に係る株式先渡し契約金融負債（3,814億円）
ドイツテレコム	-0.43		2021年10月に実行したドイツテレコム株式を活用したカラー取引に係る負債残高相当額（4,336億円）
SBKK	-0.50		SBKK株式を活用したマージン・ローン負債残高相当額（4,990億円）
SBG単体 調整後純有利子負債		3.15	

*1 Tモバイル株式を活用したマージン・ローン（借入総額\$0.87B）については、例外的にSBGが一部保証しているため、当該保証債務の上限枠（\$0.26B）を控除した金額をノンリコースのアセットバック・ファイナンスによる借入額としている。なお、SBGが当該保証を履行する前提条件として、金融機関はまず当該マージン・ローンの担保に供されているアリババ株式から最大限回収を図ることが義務付けられている。

(参考) フォワード・カラー取引

<p>目的</p>	<p>デリバティブを活用したノンリコースの資金調達</p>
<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 将来時点で、当初合意した価格もしくはレンジで決済する取引 • 株式担保とそれを参照するデリバティブを見合いに資金調達 • 原則、満期において現金と株式による決済のいずれも選択可 • 株価下落で満期時の決済金額が減少、株価上昇で増加する
<p>フォワード取引</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 担保株式を、あらかじめ合意した先渡価格で決済 • 決済価格は、担保株式の株価変動にかかわらず固定。よって将来の株価上昇によるアップサイドは享受できない
<p>カラー取引</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 担保株式を、あらかじめ合意した価格レンジで決済 • 株価下落時でも、価格レンジ下限で決済可。他方、株価上昇によるアップサイドは価格レンジ上限に限定

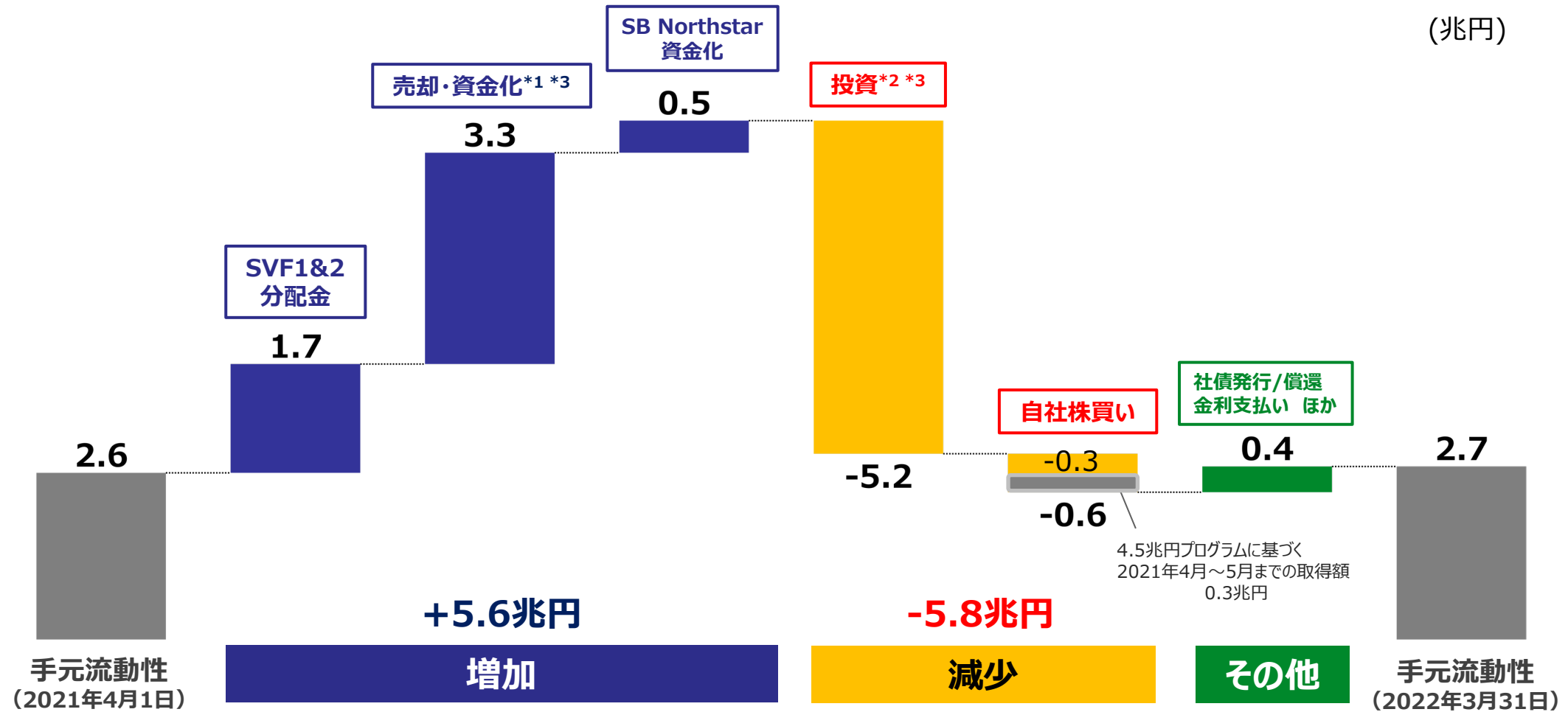
SBGの格付推移



(注) 2022年8月10日時点

(参考) FY21の投資回収サイクル：投資と資金化のブレイクダウン

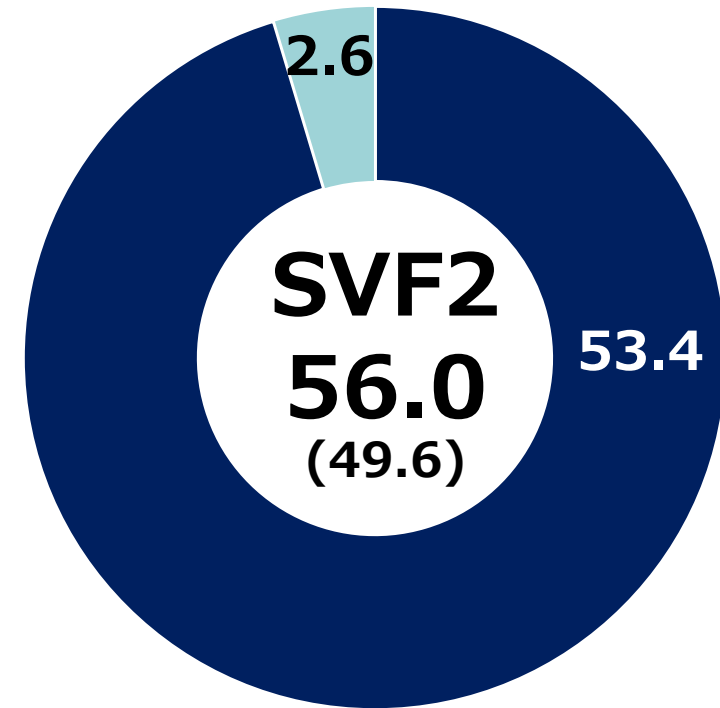
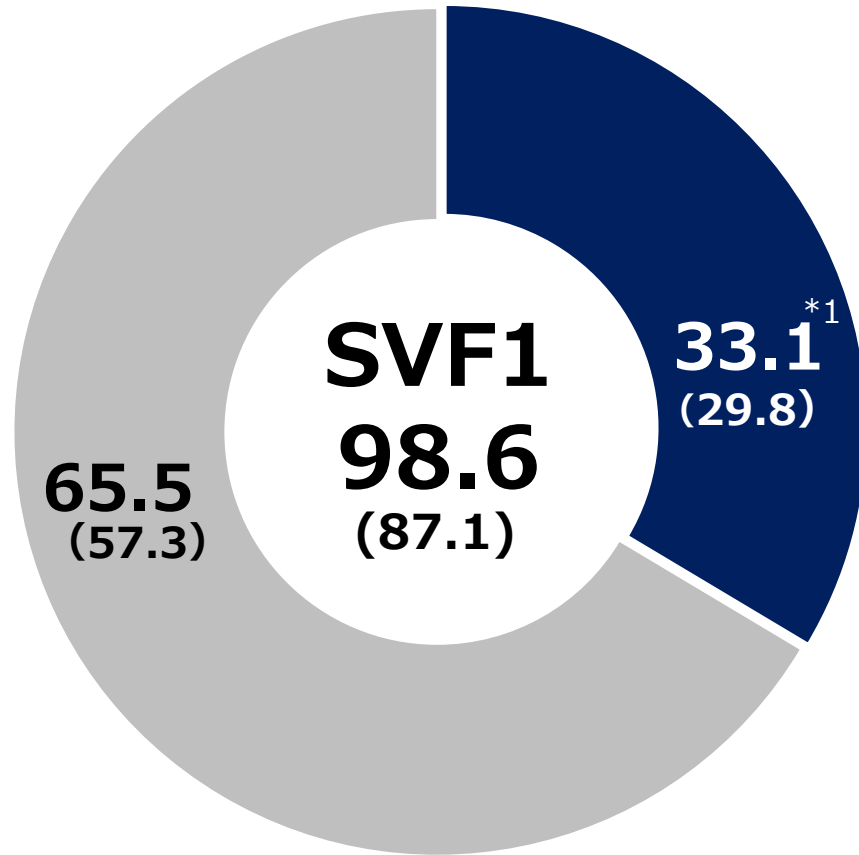
様々な手段により創出した資本を主に新規投資に配分



*1 売却・資金化による収入と返済による支出の純額
 *2 SVF1&2およびラテンアメリカ・ファンドへの拠出額
 *3 FY21にSBGからSVF2へ移管した投資 (0.7兆円) を含む。

SVF1&2 : コミットメント状況 (2022年6月末時点)

(\$B)



※ 括弧内は拠出額

*1 SVF1への当社の出資コミットメントは、アーム株式を活用した\$8.2B相当の支払義務履行分（全該当株式を拠出済み）のほか、SVF1に関連するインセンティブ・スキームへ活用される\$2.5Bを含む。

*2 孫 正義以外の経営陣の参加は2022年6月末現在未決定だが、将来的に参加を予定。2022年6月末時点で出資は全額が未払い。詳細は2022年3月期決算 投資家向け説明会 プレゼンテーション資料 財務編「SVF2共同出資プログラムの導入」参照

連結：有利子負債、手元流動性、純有利子負債

連結有利子負債*1

(単位:億円)

	Jun 21	Sep 21	Dec 21	Mar 22	Jun 22
SBG単体	140,334	139,674	138,604	149,187	158,429
うち、SB Northstar	14,245	2,863	2,754	335	42
SVF1&2、LatAmファンド	5,450	8,356	12,086	10,773	14,134
ソフトバンク事業	62,274	59,691	61,680	59,994	62,202
その他（アーム等）	4,280	3,273	3,370	3,282	3,744
合計	212,338	210,995	215,739	223,236	238,509

連結手元流動性*2

(単位:億円)

	Jun 21	Sep 21	Dec 21	Mar 22	Jun 22
SBG単体	31,033	33,579	26,811	30,799	39,448
うち、SB Northstar	10,081	5,959	5,821	3,300	1,271
SVF1&2、LatAmファンド	4,012	1,074	2,511	2,003	733
ソフトバンク事業	14,013	10,575	12,834	12,219	12,488
その他（アーム等）	4,572	5,082	6,101	7,208	6,671
合計	53,630	50,309	48,256	52,229	59,341

連結純有利子負債*3

(単位:億円)

	Jun 21	Sep 21	Dec 21	Mar 22	Jun 22
SBG単体	109,301	106,096	111,793	118,388	118,981
うち、SB Northstar	4,164	-3,096	-3,067	-2,965	-1,229
SVF1&2、LatAmファンド	1,437	7,282	9,575	8,770	13,401
ソフトバンク事業	48,261	49,116	48,846	47,775	49,713
その他（アーム等）	-292	-1,808	-2,730	-3,927	-2,927
合計	158,708	160,686	167,483	171,006	179,168

*1 SBG連結外部に対する有利子負債およびリース負債の合計。PayPay銀行の銀行業の預金は含まない。

*2 手元流動性 = 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資。PayPay銀行の手元流動性は含まない。

*3 PayPay銀行の「銀行業の預金 - 手元流動性」は含まない。マイナス表記はネットキャッシュ